

## 厚生労働科学研究費補助金（がん対策推進総合研究事業）

### 総合研究報告書（令和4年度～令和6年度）

#### 子宮頸がん検診におけるHPV検査導入に向けた実際の運用と課題の検討のための研究

研究代表者 慶應義塾大学 名誉教授 青木大輔

#### 研究要旨

本研究は、子宮頸がん検診における HPV 検査単独法の導入に向けて、科学的根拠に基づく運用アルゴリズムの提案と、導入に必要な体制整備の検討を目的として、令和4年度から6年度にかけて実施された。まず、HPV検査単独法導入時に想定されるリスク保持者の管理や、液状化検体を用いた検査体制など、導入の前提条件を整理した。また令和5年度には、文献的検討に基づくアルゴリズム案を作成し、厚生労働省の要請により「対策型検診におけるHPV検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル（案）」として提出、政策検討の場における議論の基盤を提供した。さらに追跡精検の時期やCIN3+の累積罹患に関するデータを文献から抽出・分析し、わが国のアルゴリズムにある1年後の追跡精検は、海外で最も多く採用されているアルゴリズムであること、およびHPV陽性かつ細胞診NILMにおけるCIN3+の累積罹患が長期間にわたり増加する傾向にあり、継続した管理が必要であることを明らかにした。これにより、わが国が採用したアルゴリズムの妥当性が文献的にも支持されることを示した。また、トリアージ精検受診率の確保、検査体制のキャパシティ調査など、制度実装に必要な実務的課題の検討も行った。以上を踏まえ、本研究は当初の目的を完了し、今後はパイロット的な実施を通じて実運用の検証を進め、モニタリングを継続しながら全国的な展開の基盤を築くことが求められる。

#### 研究分担者氏名 ・ 所属研究機関名及び所属研究機関における職名

八重樫 伸生	・ 国立大学法人 東北大学・大学院医学系研究科・客員教授
藤井 多久磨	・ 藤田医科大学・医学部 婦人科学・教授
宮城 悦子	・ 横浜市立大学・大学院医学研究科 生殖生育病態医学・教授
中山 富雄	・ 国立がん研究センター・がん対策研究所 検診研究部・部長
齋藤 豪	・ 札幌医科大学・医学部・教授
横山 良仁	・ 弘前大学・大学院医学研究科・教授
竹原 和宏	・ 四国がんセンター・婦人科・手術部長
川名 敬	・ 日本大学・医学部・主任教授
齊藤 英子	・ 国際医療福祉大学三田病院・予防医学センター・講師
森定 徹	・ 杏林大学・医学部産科婦人科学教室・准教授
高橋 宏和	・ 国立がん研究センター・がん対策研究所 検診研究部検診実施管理研究室・ 研究員
戸澤 晃子	・ 聖マリアンナ医科大学・医学部産婦人科・客員教授
雑賀 公美子	・ JA 長野厚生連 佐久総合病院・佐久医療センター 総合医療情報センター・ 医療情報分析室長
黒川 哲司	・ 福井県済生会病院・産婦人科・主任部長
上田 豊	・ 大阪大学・大学院医学系研究科・講師
西尾 浩	・ 慶應義塾大学・医学部 産婦人科学・専任講師

## A. 研究目的

わが国の子宮頸がん検診は、健康増進事業の一環として市区町村における対策型検診として行われており、その手法は「がん予防重点健康教育及びがん検診実施のための指針」（指針）に基づき子宮頸部細胞診が採用されている。近年、細胞診に比較してより感度の高い HPV 検査を用いた検診を対策型検診として導入した国も存在する。しかし、がん検診を取り巻く環境や検診の精度管理状況は国によって異なるため、精度管理体制が十分とは言えないわが国で HPV 検査を用いた検診が検診としての効果が上げられる保障はない。また、わが国の地域住民検診の内容の決定には「科学的根拠に基づくがん検診ガイドラインでの推奨」に加え、厚生労働省によって組織される「がん検診のあり方に関する検討会」において対象年齢や検診間隔、アルゴリズムなどの実際の運用方法を決定するという過程を経る必要がある。そこで本研究は、「がん検診のあり方に関する検討会」にて実際の運用を決める際の参考となる学術的見解を示し、導入の際に資する資料を作成することを目的とした。

具体的には HPV 検査の導入によって生じるリスク保持者に対する追跡管理方法について文献・公表物を含めた検討や、HPV 検査による検診の導入に必要なインフラとして、液状化検体細胞診、液状検体による HPV 検査を実施できるキャパシティを調査すること、HPV 検査を用いた子宮頸がん検診について対策型検診での実際のアルゴリズムと運用、さらに導入条件を決めるための基礎データとして、体系的文献検索により、アルゴリズム候補の抽出と絞り込みを目指した。抽出された文献検索を元に「HPV 陽性かつ細胞診 NILM 症例」での CIN3 以上の病変 (CIN3+) の累積罹患状況について体系的な文献検索を行ない、HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の妥当性を指示する運用実績についての基礎資料作成を目指した。

また、厚生労働省からの要望による、本研究で得られた学術的見解に基づいたアルゴリズム案、および厚生労働省による健康増進事業への HPV 検査単独法による子宮頸がん検診導入の決定を受け、その実行に資するための「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル (案)」の作成も本研究の目的になった。

## B. 研究方法

### I. HPV 検査を用いた検診アルゴリズムについての網羅的文献調査

子宮頸がん検診のアルゴリズムについての記載が想定される論文を、2010 年～2022 年 1 月に公表された論文を対象に Key word を用いて網羅的にリストアップした。次にリストアップされた論文の抄録をダブルチェックにて吟味して、アルゴリズムと無関係と判断できる論文を除外した。残った候補論文を個々に通読し、アルゴリズムの記載の有無を確認した。記載されていたアルゴリズムのパターンを、検診の検査法、トリアージの検査法、検診陽性かつトリアージ陰性を追跡して行う検査法 (追跡精検) のそれぞれが、いずれの検査法で行われているかを集計した。追跡精検として文献的に最も多く実施されている手法について記載のある論文について、追跡精検の実施時期を文献から集計した。

### II. 累積罹患についての網羅的文献調査

リストアップされた論文を対象に、CIN3+ の累積罹患データ記載の有無を確認した。ここでの累積罹患とは、検診暴露から、12 ヶ月以上のフォローアップ期間中に検出された病変の数と定義し、検診回数実施回数は問わないものとした。記載されていた累積罹患データを、アルゴリズムのパターン別に分類した。HPV 検査単独法に

よる子宮頸がん検診で特に注目されるのが HPV 陽性かつ細胞診 NILM 症例であることから、それらの症例における累積罹患の推移について検討した。浸潤がんの累積罹患についても同様に検討した。

### III. トリアージ精検受診率確保の必要性と対応策の検討

がん検診での効果を上げるためには高い精検受診率を確保することが不可欠である。HPV 検査単独法の場合、第 1 番目に実施する精密検査であるトリアージ検査（トリアージ精検）の受診率が担保されない場合、それ以後の診断確定のためのコルポスコープ下狙い組織診（確定精検）や追跡精検の受診率も自ずと低いものにならざるを得ない。そこで、現行での検診受診率についてのデータの確認を行い、またトリアージ精検を要する場合の受診率を文献的に検討した。さらにトリアージ精検受診率向上のための手立てを検討しつつ、望むべき受診率の提案を試みた。

### IV. HPV 単独法による子宮頸がん検診の導入に必要なインフラとして、液状化検体細胞診、液状検体による HPV 検査を実施できるキャパシティの情報の調査

HPV 検査単独法導入の検討においては、検査会社のキャパシティによってわが国全体で一斉に導入することが可能か、準備ができたところから段階的に開始すべきか予め把握する必要がある。液状化検体細胞診および HPV 検査についての日本国内全国の、検査関連会社から、リモートでのヒアリングおよびオンラインアンケートを実施した。

### V. わが国の現状を踏まえた HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の流れについての検討

「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019 年度版」の記述と上記までの検討結果

から HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の実際の流れについて、アルゴリズムを検討した。

### VI. 「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」(案) の策定

がん検診のあり方についての検討会での議論、および厚生労働省の指示により、地域住民検診に限らず、対策型検診に HPV 検査単独法を導入する場合の最低限必要な要件や実際に実施すべきことについてのマニュアル(案)を策定した。またその案を、がん検診のあり方についての検討会に提出した。

(倫理面への配慮)

本研究は主に文献収集および地方自治体等を対象にした調査であり、個人への介入は行わない。人体から採取された資料は用いないため、倫理上、特に問題は発生しない。

### C. 研究結果

#### I. HPV 検査を用いた検診アルゴリズムについての網羅的文献調査

##### I. HPV 検査を用いた検診アルゴリズムについての網羅的文献調査

子宮頸がん検診のアルゴリズムは CIN3+ の発生率についての文献候補を key word にてリストアップしたところ、673 文献が候補として上がった。その中からアルゴリズムが確認できたものは 56 文献で、87 のアルゴリズムが検出された。図 1 に示すように、87 アルゴリズム、検診手法として最も多かったのは high risk HPV 検査(以下 HPV 検査)単独法の 57 アルゴリズムであり、HPV 検査+細胞診の同時併用法は 11 アルゴリズムに留まった。さらに、HPV 検査単独法 57 のうち、トリアージ方法でもっとも多かったのは細胞診の 48 アルゴリズム(84%)であった。また、HPV 検査単独+細胞診トリアージで HPV

陽性かつ細胞診 NILM の症例はリスク保持者としての管理が必要であり、その管理のために時間をあけて追跡的に行う精密検査である追跡精検の方法で最も多かったのは HPV 検査の 27 アルゴリズム (56%) であった。

また、「HPV 検査単独法検診+細胞診トリアージ」における、「HPV 陽性かつ細胞診 NILM」症例への HPV 検査による追跡精検の実施時期は、12 ヶ月後が 27 文献中 22 件 (81%) と最も多く、24 ヶ月後が 3 件、6 ヶ月後が 1 件であった。

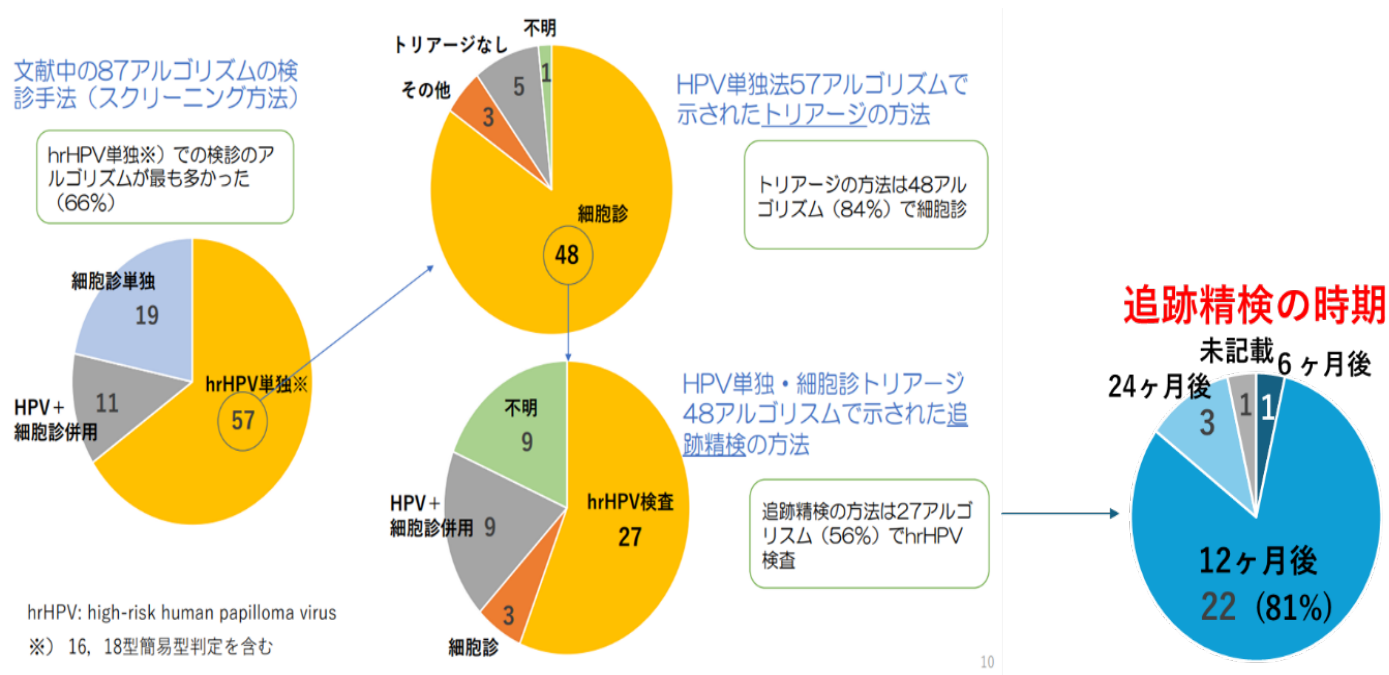


図 1. HPV 検査を用いた子宮頸がん検診の検診方法と追跡精検の方法と時期に関する文献検索の結果 (第 38 回がん検診のあり方に関する検討会 (青木参考人提出資料) より改編)

## II. 累積罹患についての網羅的文献調査

### II-1. アルゴリズム別の CIN3+の累積罹患解析は可能か?

11 文献が候補であり、(表 1、表 2) これらの文献では、トリアージ精検についての記載が 8 文

献であったものの、追跡精検の方法、時期についての記載があるものは存在せず、追跡精検を含めたアルゴリズム別の累積罹患の解析は現時点でできないことが判明した。

表 1. アルゴリズム別累積罹患についての結果（文献番号は体系的検索時のもの）

アルゴリズムグループ	文献番号	追跡精検の指定	結果 (CIN3+)	備考
HPV単独→細胞診トリアージ	文献10	なし	細胞診陰性でのリスク HPV陰性を有意に上回ったのは25歳以上で16、31、33/58のみ、30歳以上で16、31のみ	細胞診NILMで型判定
	文献44	なし	細胞診陽性>陰性	
	文献58	なし	細胞診陰性のリスク 1、3、5、10、15年目： 2.1%、4.3%、6.4%、11.5%、16.3%	浸潤癌でのデータあり 0.8%、1.2%、1.6%、2.7%、3.7%
	文献60	なし	いずれのサブグループでもNILMは他より罹患率低	(HPVの時点で型のサブグループ分けあり) オコクリティイ
(HPV単独→細胞診→メチル化トリアージ)	文献36	なし	細胞診陰性でのリスク 【5年目まで】 ・メチル化陰性が最も多。 ・細胞診陰性では少な目。 【5年目～15年目】 ・細胞診陰性とメチル化陰性が同程度に累積罹患率高 ・細胞診陰性かつメチル化陰性が一番低い	
細胞診単独→HPVトリアージ	文献108	なし	30-64歳 ASC-US でHPV陽性/HPV陰性：6.8%/0.43%	21-24歳、25-29歳データあり 浸潤癌のデータもあり
HPV単独→HPV型判定トリアージ	文献6	追跡精検もHPV単独	罹患リスクが高い順位 ・16型持続 ・16型以外の持続 ・新たに16型に感染 ・新たに16型以外感染 ・HC2陽性型判定陰性 ・HC2陰性	
	文献11	なし	次の順に累積罹患が多い 16,33,18,58,35,31,45,52,39,56,68,51,59	
スクリーニング法のみでアルゴリズムなし	文献6	なし	2年目から一貫して細胞診NILM>HPV陰性	
	文献7	なし	30歳以上 HPV単独>細胞診単独 (P<0.05) HPV単独vs細胞診+HPV併用(NS) 細胞診+HPV併用vs細胞診単独(NS)	25歳以上のデータもあり
	文献32	なし	HPV単独は細胞診単独と比較し罹患率が減少 0.43(0.33-0.56)倍	罹患率減少効果！メタアナリシス 浸潤癌データあり
	文献105	なし	—	罹患率減少効果！モデリング 浸潤癌のみ ・7.5年の検診間隔まで：5年に1回の細胞診単独よりがん罹患減少が見込める

表 2. 上記文献に該当する論文一覧

文献番号	該当文献
6	Clare Gilham, Alexandra Sargent, Henry C Kitchener, Julian Peto: HPV testing compared with routine cytology in cervical screening: long-term follow-up of ARTISTIC RCT. Health Technol Assess. 2019 Jun;23(28):1-44.
7	Thomas C Wright, Mark H Stoler, Catherine M Behrens, Abha Sharma, Guili Zhang, Teresa L Wright: Primary cervical cancer screening with human papillomavirus: end of study results from the ATHENA study using HPV as the first-line screening test. Gynecol Oncol. 2015 Feb;136(2):189-97.
10	Mark H Stoler, Thomas C Wright Jr, Valentin Parvu, Karen Yanson, Charles K Cooper, Jeffrey Andrews: Stratified risk of high-grade cervical disease using onclarity HPV extended genotyping in women, ≥25 years of age, with NILM cytology. Gynecol Oncol. 2019 Apr;153(1):26-33
11	Maria Demarco, Noorie Hyun, Olivia Carter-Pokras, Tina R Raine-Bennett, Li Cheung, Xiaojian Chen, Anne Hammer, Nicole Campos, Walter Kinney, Julia C Gage, Brian Befano, Rebecca B Perkins, Xin He, Cher Dallal, Jie Chen, Nancy Poitras, Marie-Helene Mayrand, Francois Coutlee, Robert D Burk, Thomas Lorey, Philip E Castle, Nicolas Wentzensen, Mark Schiffman: A study of type-specific HPV natural history and implications for contemporary cervical cancer screening programs. EClinicalMedicine. 2020 Apr 25;22:100293.
32	Marc Arbyn, Guglielmo Ronco, Ahti Anttila, Chris J L M Meijer, Mario Poljak, Gina Ogilvie, George Koliopoulos, Pontus Naucler, Rengaswamy Sankaranarayanan, Julian Peto: Evidence regarding human papillomavirus testing in secondary prevention of cervical cancer. Vaccine. 2012 Nov 20;30 Suppl 5:F88-99.
36	F J Vink, B I Lissenberg-Witte, C J L M Meijer, J Berkhof, F J van Kemenade, A G Siebers, R D M Steenbergen, M C G Bleeker, D A M Heideman: FAM19A4/miR124-2 methylation analysis as a triage test for HPV-positive women: cross-sectional and longitudinal data from a Dutch screening cohort. Clin Microbiol Infect. 2021 Jan;27(1):125.e1-125.e6.
44	Philip E Castle, Barbara Fetterman, Nancy Poitras, Thomas Lorey, Ruth Shaber, Mark Schiffman, Franklin Demuth, Walter Kinney: Variable risk of cervical precancer and cancer after a human papillomavirus-positive test. Obstet Gynecol. 2011 Mar;117(3):650-656. doi: 10.1097/AOG.0b013e318209da59.
58	Talia Malagón, Karena D Volesky, Sheila Bouten, Claudie Laprise, Mariam El-Zein, Eduardo L Franco: Cumulative risk of cervical intraepithelial neoplasia for women with normal cytology but positive for human papillomavirus: Systematic review and meta-analysis. Int J Cancer. 2020 Nov 15;147(10):2695-2707. doi: 10.1002/ijc.33035. Epub 2020 May 26.
60	Mark Schiffman, Noorie Hyun, Tina R Raine-Bennett, Hormuzd Katki, Barbara Fetterman, Julia C Gage, Li C Cheung, Brian Befano, Nancy Poitras, Thomas Lorey, Philip E Castle, Nicolas Wentzensen: A cohort study of cervical screening using partial HPV typing and cytology triage. Int J Cancer. 2016 Dec 1;139(11):2606-15. doi: 10.1002/ijc.30375. Epub 2016 Aug 26.
105	Johannes Berkhof, Veerle M Coupé, Johannes A Bogaards, Folkert J van Kemenade, Theo J Helmerhorst, Peter J Snijders, Chris J Meijer: The health and economic effects of HPV DNA screening in The Netherlands. Int J Cancer. 2010 Nov 1;127(9):2147-58.
108	Hormuzd A Katki, Mark Schiffman, Philip E Castle, Barbara Fetterman, Nancy E Poitras, Thomas Lorey, Li C Cheung, Tina Raine-Bennett, Julia C Gage, Walter K Kinney: Five-year risk of CIN 3+ to guide the management of women aged 21 to 24 years. J Low Genit Tract Dis. 2013 Apr;17(5 Suppl 1):S64-8.

## II-2. HPV陽性かつ細胞診NILM症例でのCIN3+の累積罹患

11 文献中 CIN3+の累積罹患についての記載があるのは下記である。

- HPV 単独法検診+細胞診トリアージ 5 文献
  - 文献 10 (細胞診 NILM 症例の型判定)
  - 文献 44
  - 文献 58
  - 文献 60 (HPV の時点で型のサブグループ分けあり)
  - 文献 36 (細胞診のあとにメチル化検査を実施、数値なし)
- HPV 単独→HPV 型判定アルゴリズム 1 文献
  - 文献 60 のデータで解析可能
- 細胞診単独→HPV トリアージアルゴリズム
  - 文献 108 : cytology : ASC-US に対して HPV トリアージ
- スクリーニング法のみでアルゴリズムなし文献 2 文献
  - 文献 32 メタアナリシス (CIN3+罹患率

over all)

- 文献 105 モデル解析 罹患率減少効果
- 経時的变化 : CIN3+の発生は、検診時 HPV 陽性であれば組織診陰性のものであっても、検診後 1 年で 2.1%の者に見られ (文献 58)。同時期での浸潤がん発生は 0.8% (文献 58) であった。その後、CIN3+、浸潤がんのいずれにおいても検診 15 年目まで漸増しており、途中でプラトーに達していない。(図 2、3)
- また、トリアージとして HPV の型判定を実施した報告 (文献 60) によれば、16 型陽性のものは HPV 陽性かつ細胞診 NILM の中でも CIN3+の累積罹患率が高かった。(図 2)
- 罹患率減少効果 : CIN3+や浸潤がんの罹患率減少効果については、検診手法が HPV 検査単独の場合についてのメタアナリシス (文献 32) およびモデリング (文献 105) があつた。「HPV 検査陽性の場合に細胞診でトリアージを行なう」というアルゴリズムに限定した解析はなかつた。

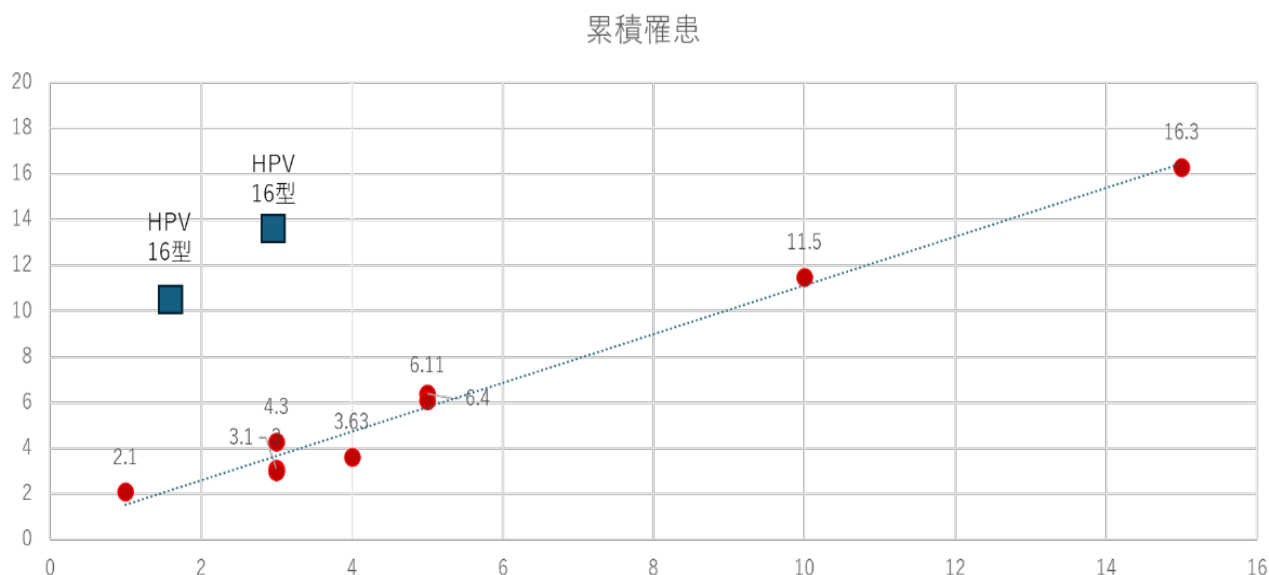


図 2. HPV 検査陽性かつ細胞診 NILM における累積罹患 (CIN3+) (文献 10、32、44、58、60 より作図)

## 累積罹患

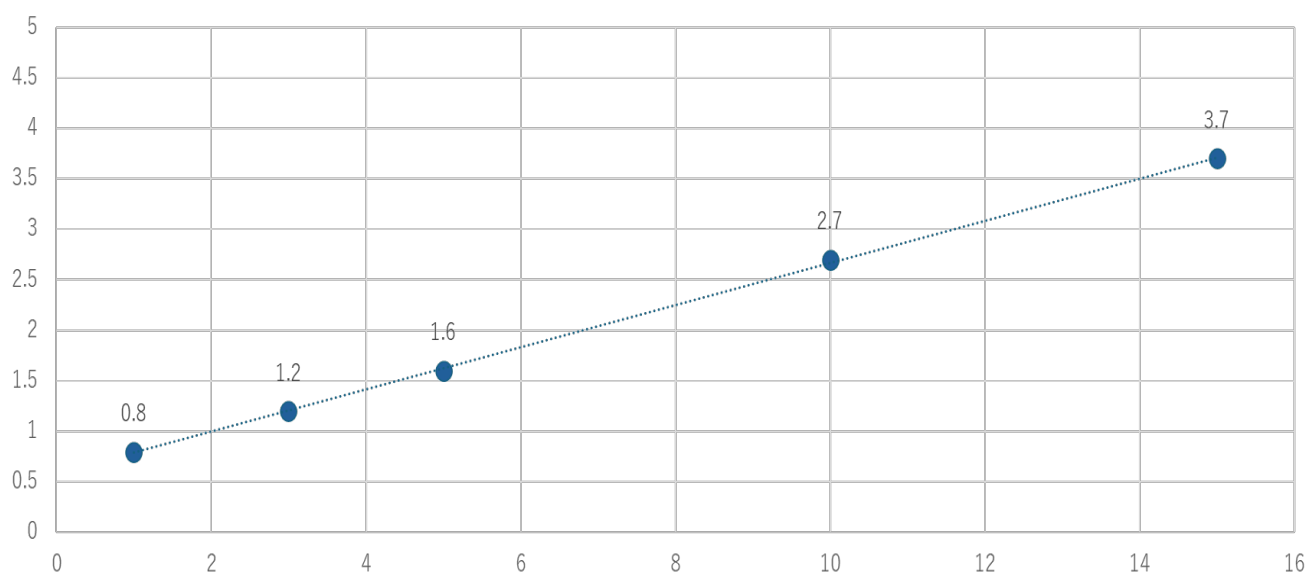


図3. HPV検査陽性細胞診NILMにおける累積罹患(浸潤がん)

(文献58より作図)

以上の検討から、文献にて示されている現時点で最も頻度の高いアルゴリズムは、

- ・ 検診の検査方法：HPV検査単独
- ↓
- ・ トリアージ検査方法：直ちに細胞診単独
- ↓
- ・ 追跡精検の検査方法：12か月後 HPV検査単独

であり、浸潤がんあるいはCIN3+が減少することが確認されているアルゴリズムを採用することが最も理想的ではあるものの、アルゴリズム別のCIN3+の累積罹患状況や、アルゴリズム別に累積罹患減少を論ずるだけの証拠は現時点では存在しなかった。

### III. トリアージ精検受診率確保の必要性と対応策の検討

地域保健・健康増進事業報告による、現行の細胞診単独での子宮頸がん検診での精密検査受診率は2014年度実施検診では73%であったものが年々改善し、2022年度実施検診では78%程度に到達していた。また本邦で行ったHPV検査+細胞診併用の有効性評価研究やカナダでのHPV検査単独法で、要トリアージ精検となった者の精検

受診率はいずれも50%程度に留まっていた。よってわが国でHPV単独法を導入する場合、トリアージ精検の段階では限りなく100%に近づける体制構築をとる対策が必要である。

精密検査受診率向上の手段を検討した結果、検診受診の際、対象者全員に精密検査の意義と必要性を文書で説明すること、未受診者の把握とリコールなどの手法に加え、HPV検査単独法による検診に対するトリアージでは、検診時に液状化検体

を用いた検体採取を行うことで、トリアージ精検を対象者の再受診なしで実施することが可能であり、他国で実施されている。この液状化検体での検体採取は、精密検査受診率向上の手立てとしては理論上 100%受診も見込める。以上より、図 4 に示すように液状化検体を用いた

HPV 検査による検診と、その残余検体を用いたトリアージ検査としての liquid-based cytology (LBC) による細胞診の仕組みを整理し、がん検診のあり方に関する検討会の検討資料として提出した。

## 対応策：HPV検査陽性の検体で細胞診を実施する —液状化検体による検体採取—

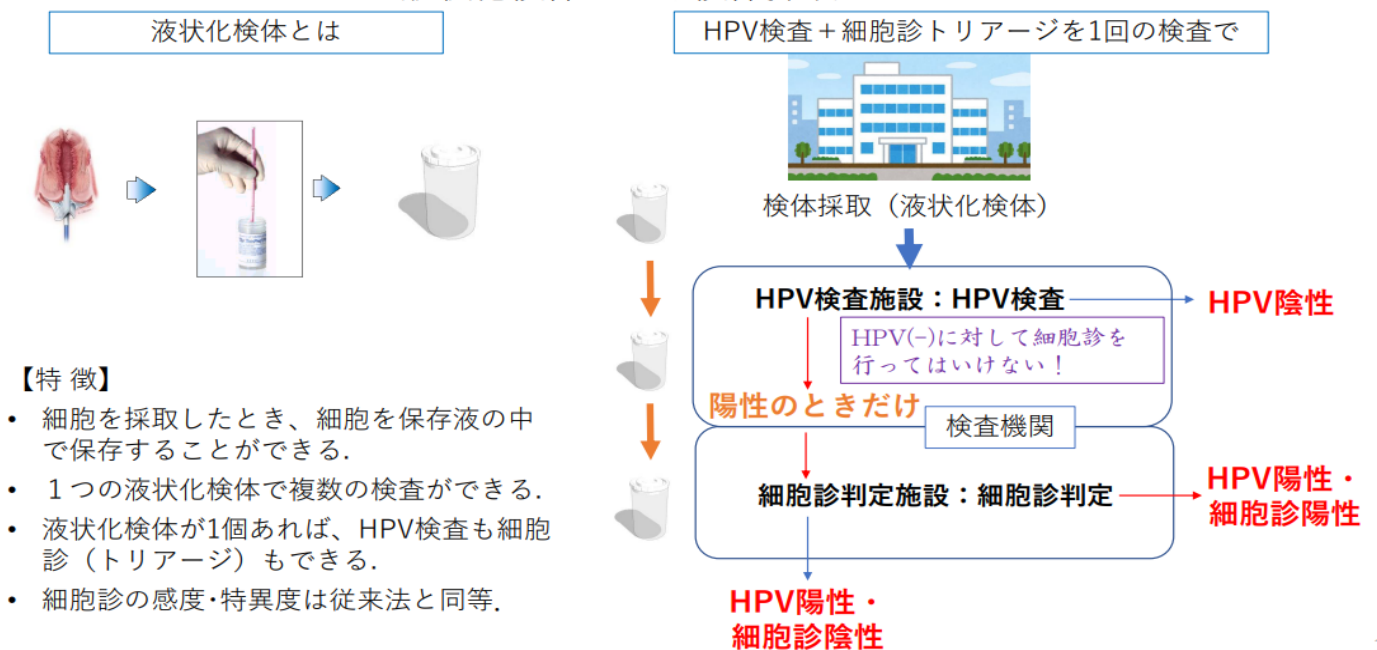


図 4. トリアージ精検受診率を確保するための対応策（第 38 回がん検診のあり方に関する検討会（青木参考人提出資料））

#### IV. HPV 検診の導入に必要なインフラとして、液状化検体細胞診 (LBC)、液状化検体による HPV 検査を実施できるキャパシティの情報の調査

国内の検査関連会社からのヒアリングおよびアンケートから、LBC 自体の運用実績は日本全体で既に十分にあることが明らかになった。すなわち HPV 検査単独法による検診、陽性者に LBC でのトリアージ精検実施を日本中の対象者に実施することを想定した場合でも、十分カバーで

きる事が判明した。その一方、HPV 検査後の残余検体を用いて LBC を実施したことのある検査施設はほとんどなかった。また、アンケート調査からは HPV 検査の年間実施数は、全国で HPV 検査単独法による検診を実施したと過程した場合の必要数を下回っていた。したがって、HPV 検査単独検診→細胞診トリアージを実施するにはそのロジスティックや体制構築などの準備が必要であり、研究実施時点では全国一斉開始は困難であると判明した。

## V. わが国の現状を踏まえた HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の流れについての検討

「有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドライン 2019 年度版」の、30-60 歳対象、5 年に 1 回、HPV 検査単独法でトリアージ検査を行うとい

う記述に基づき、また上記 I, II の結果よりがん検診のあり方に関する検討会にて協議すべき HPV 検査単独法での子宮頸がん検診のフローを下記のようにデザインした。

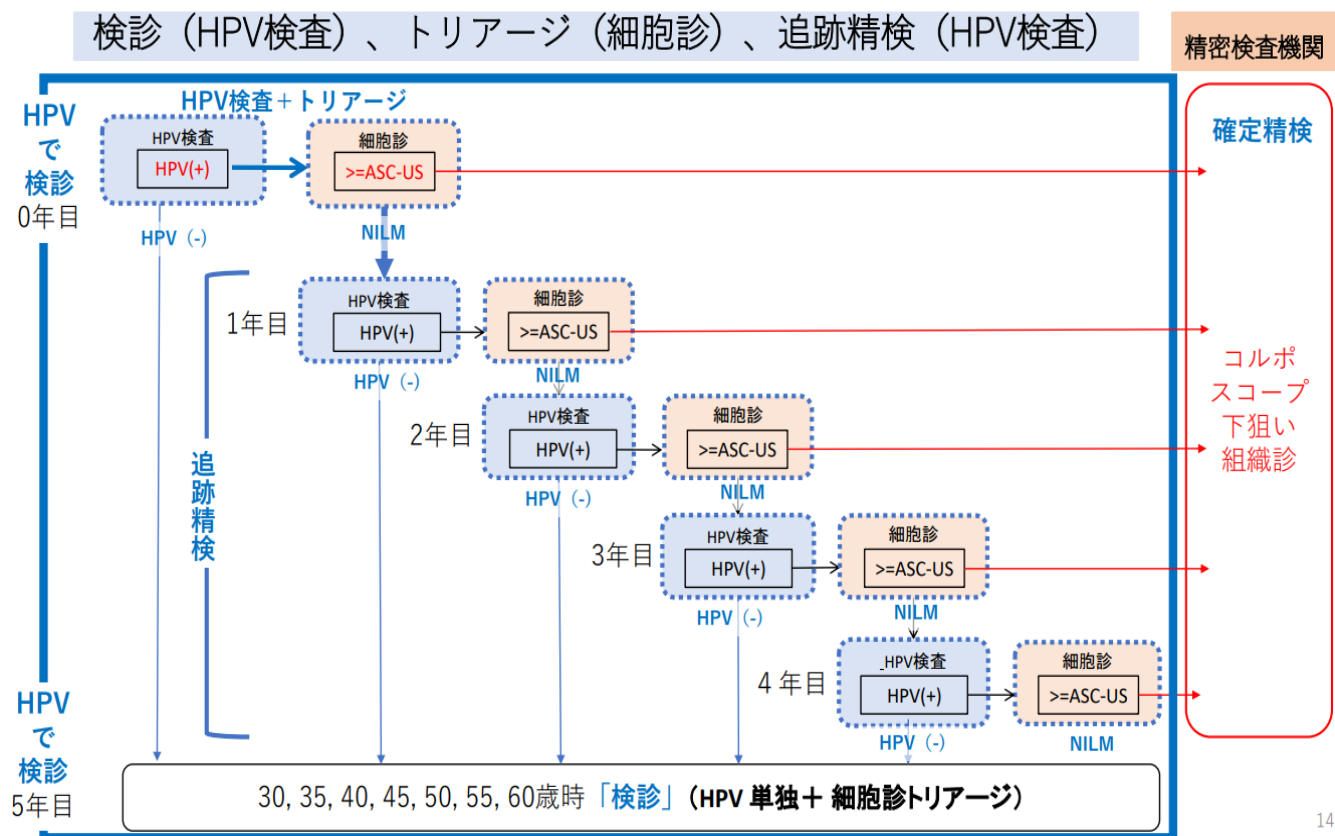


図 5. 検診 (HPV 検査)、トリアージ精検 (細胞診)、追跡精検 (HPV 検査) の流れ  
(第 38 回がん検診のあり方に関する検討会 (青木参考人提出資料))

VI. 「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル」(案) の策定  
地域住民検診に限らず、職域等を含め全ての対策型検診を念頭においた「対策型検診における HPV 単独法による子宮頸がん検診実施マニュアル」第 1 部を作成した。  
内容は、がん検診の目的および検診と診療の違いといった総論を記した上で、子宮頸がん検診としての HPV 検査の科学的根拠を詳細に記載

した。そのうえで HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の実施の概要を示し、その中にアルゴリズムのフローチャートを掲載した。続いて HPV 検査による子宮頸がん検診を実施するための実施主体の体制、および検体を採取する機関/HPV・細胞診判定機関の体制整備 (検査試薬、判定等) を説明した。後者にはわが国で現在使用可能な検査試薬等も掲載した。  
続いて実際の運用として、HPV 検査単独法に

よる子宮頸がん検診を始める前に受診者に対して説明すべきことと、確認する事項、HPV 検査による子宮頸がん検診の実施手順：検体採取、HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の実施手順：結果判定と実施主体への結果報告、実施主体から受診者への結果通知、実施主体から受診者への結果通知、追跡精検（検診から 1 年後の HPV 検査）の実施について掲載した。

最後に、精度管理上最も重要である HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の精度管理評価についての章を設け、この第 1 部で対策型検診に HPV 検査単独法を導入できるか否かの検診事業提供者の判断を助け、また実際に運用する場合のバイブルとなる仕立てとした。（別添資料）

さらに、厚生労働省の要望にて健康増進事業で実施のための、いくつかの読み替えに対応する第 2 部を、厚生労働省と共同責任で執筆した。

（別添資料）

第 1 部と第 2 部とをがん検診のあり方に関する検討会の討議資料として提出した。

また、令和 6 年度から開始予定であった自治体（横浜市、志木市、和光市）に対して、対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアルに沿った内容で「令和 5 年度 HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の導入に向けた精度管理支援研修会」を開催した。

#### D. 考察

2019 年版の有効性評価に基づく子宮頸がん検診ガイドラインでは、細胞診単独法と並んで HPV 検査単独法が推奨された際に、導入の前提条件として、わが国で統一された検診結果毎の診断アルゴリズムの構築が必要とされた。当研究班は厚生労働省の研究班として、科学的根拠に基づいたアルゴリズム提案を命題に、文献的検討と運用案の提示を行ってきた。

2023 年度には、文献的検索をもとにアルゴリズム案を「がん検診のあり方に関する検討会」に提案し、厚生労働省の要請に応じて、「対策型検診

における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル（案）」を作成・提出したことは制度実装に向けた大きな前進である。さらに 2024 年度の検討では、HPV 陽性かつ細胞診 NILM 症例に対し「1 年後に追跡精検を行う」アルゴリズムが最も頻度が高く、わが国で採用したアルゴリズムもこれに合致していることを確認している。また、CIN3+の累積罹患については 15 年間にわたり漸増という文献的検索結果を得ることができ、HPV 陰性化まではスクリーニングではなく精密検査の枠組みで管理を続けるという、わが国が導入した運用方針の妥当性が文献的にも支持された形である。

本研究ではわが国での HPV 検査判定施設や LBC 判定施設の処理能力の実態調査や、現時点での細胞診単独法での精検受診率の状況についても把握を行った。これにより、全国一斉導入ではなく、体制の整ったところからパイロット的な段階を経ながら導入せざるを得ないこと、また HPV 検査単独法では液状化検体を用いた HPV 検査を実施し、HPV 陽性例には残余検体でトリアージ精検の LBC を実施することが、精検受診率が低いわが国では HPV 検査単独法の運用成功の鍵の 1 つとなることを提言することができた。

一方で、国としてのスクリーニング・レジストリーが存在しない現状では、こうしたアルゴリズムを現場で安定的に運用するためのインフラ整備が急務である。今後は、策定したマニュアルに基づいて、要件を満たす自治体からパイロット的に導入を開始し、スクリーニング・レジストリーやがん登録との照合による安全性確認を通じてモニタリングを行い、段階的に全国展開を図ることが現実的であり、がん検診全体の質保証の先鞭ともなりうる。

#### E. 結論

HPV 検査単独法のアルゴリズム候補の中から、わが国の現状を考慮してシンプルかつ実用性に

富むものを提案し、さらに、これまでの知見からそれを実施するための「対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診マニュアル (案)」を提示し、導入に資することができた。これらをごん検診のあり方に関する検討会の資料とすることが可能であった一方、CIN3+の累積罹患や減少効果を元に、HPV 検査を用いた検診のアルゴリズム選択を行なうには現時点では十分なデータが公表されておらず、わが国で選択したアルゴリズムの妥当性は自国でモニタリングしていく必要がある。本研究はこれをもって作業完了であり、今後は自治体におけるパイロット的な実施にて運用の可否や効果の是非をモニタリングし、今後の方向性のあり方を判断する段階に入る。

## F. 研究発表

### 1. 論文発表

・研究代表者 青木大輔

森定 徹, 青木 大輔: 子宮頸がん検診・子宮頸部細胞診単独法と HPV 検査単独法. 医学のあゆみ, 292(12):978-984, 2025.

Morisada T, Aoki D: Assessment and Management of Cervical Cancer Screening Programs in Japan. In: Aoki D. (eds) Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer. Comprehensive Gynecology and Obstetrics. Springer, Singapore, page: 63-73, doi: 10.1007/978-981-99-9396-3\_4.

森定 徹, 青木大輔: 【エビデンスから見たがん検診】子宮頸がん検診. 地域医学, 38(2):142-146, 2024.

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. 日本がん検診・診断学会誌, 31(3):35-41, 2024.

Kawana K, Kobayashi O, Ikeda Y, Yahata H, Iwata T, Satoh T, Akiyama A, Maeda D, Hori-Hirose Y, Uemura Y, Nakayama-Hosoya Y, Katoh K, Katoh Y, Nakajima T, Taguchi A, Komatsu A, Asai-Sato M, Tomita N, Kato K,

Aoki D, Igimi S, Kawana-Tachikawa A, Schust D; Phase I/II randomized clinical trial of an oral therapeutic vaccine targeting HPV for treatment of CIN2/3. JNCI Cancer Spectr, 7(6):pkad101, 2023.

宮城悦子, 浦部夢子, 青木大輔, 丹生健一: 【HPV ワクチン推進を目指して】HPV 関連がんの現状と未来. 日本医師会雑誌, 151(12): 2049-2060, 2023.

Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D: Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. J Gynecol Oncol, 34(2):e14, 2023.

Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T: Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Glob Oncol, 9:e2200222, 2023.

青木 大輔: 子宮頸がん検診の要点. 日本医師会雑誌, 151(5):786-790, 2022.

・研究分担者 八重樫伸生

Yoshiizumi E, Onuki M, Kukimoto I, Takahashi F, Matsui T, Hamasaki K, Kanao H, Nio A, Yahata H, Goda M, Yokoyama T, Hisa T, Tasaki K, Tenjimbayashi Y, Saji H, Kudaka W, Takei Y, Shigeta S, Motohara T, Matsumiya H, Nakamura K, Yoshida H, Ishikawa M, Hamanishi J, Nakai H, Mori-Uchino M, Hirashima Y, Sekizawa A, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K; MINT Study Group: Declining Prevalence of Human Papillomavirus Co-Infections Among Young Japanese Women With Cervical Cancer and Its Precursors. J Med Virol, 96(12):e70096, 2024.

Ishibashi M, Niikura H, Ishida M, Iwama N, Metoki H, Shigeta S, Nagai T, Tokunaga H, Shimada M, Yaegashi N: Long-Term and Short-Interval Assessment of Self-Reported Urinary and Sexual Functions after Nerve-Sparing Radical Hysterectomy: A Prospective Cohort Study. Tohoku J Exp Med. 263(1):1-9, 2024.

Onuki M, Takahashi F, Iwata T, Nakazawa H, Yahata H, Kanao H, Horie K, Konnai K, Nio A, Takehara K, Kamiura S, Tsuda N, Takei Y, Shigeta S, Matsumura N, Yoshida H, Motohara T, Yamazaki H, Nakamura K, Hamanishi J,

Tasaka N, Ishikawa M, Hirashima Y, Kudaka W, Mori-Uchino M, Kukimoto I, Fujii T, Watanabe Y, Noda K, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K; MINT Study Group: Human papillomavirus vaccine impact on invasive cervical cancer in Japan: Preliminary results from cancer statistics and the MINT study. *Cancer Sci*, 114(11):4426-4432, 2023.

Okamoto H, Murakami N, Isohashi F, Kasamatsu T, Hasumi Y, Kobayashi H, Ishikawa M, Nakamura M, Nishio T, Igaki H, Ishikura S, Yaegashi N, Mizowaki T, Nishimura Y, Toita T: Plan quality association between dummy run and individual case review in a prospective multi-institutional clinical trial of postoperative cervical cancer patients treated with intensity-modulated radiotherapy: Japan clinical Oncology Group study (JCOG1402). *Radiother Oncol*, 183:109630, 2023.

Ishikawa M, Shibata T, Kataoka T, Takekuma M, Kobayashi H, Yaegashi N, Satoh T : Gynecologic Cancer Study Group in Japan Clinical Oncology Group : Final analysis of a randomized phase II/III trial of conventional paclitaxel and carboplatin with or without bevacizumab versus dose-dense paclitaxel and carboplatin with or without bevacizumab, in stage IVB, recurrent, or persistent cervical carcinoma (JCOG1311). *Int J Gynecol Cancer*, 33(5):692-700, 2023.

Kukimoto I, Onuki M, Yamamoto K, Yahata H, Aoki Y, Yokota H, Konnai K, Nio A, Takehara K, Kamiura S, Tsuda N, Takei Y, Shimada M, Nakai H, Yoshida H, Motohara T, Yamazaki H, Nakamura K, Okunomiya A, Tasaka N, Ishikawa M, Hirashima Y, Shimoji Y, Mori M, Iwata T, Takahashi F, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K; MINT Study Group: Regional differences in human papillomavirus type 52 prevalence among Japanese women with cervical intraepithelial neoplasia†. *Jpn J Clin Oncol*, 52(10):1242-1247, 2022.

Nishio S, Matsuo K, Nasu H, Murotani K, Mikami Y, Yaegashi N, Satoh T, Okamoto A, Ishikawa M, Miyamoto T, Mandai M, Takehara K, Yahata H, Takekuma M, Ushijima K : Analysis of postoperative adjuvant therapy in 102 patients with gastric-type mucinous carcinoma of the uterine cervix: A multi-institutional study. *Eur J Surg Oncol*, 48(9):2039-2044, 2022.

Onuki M, Yamamoto K, Yahata H, Kanao H, Yokota H, Kato H, Shimamoto K, Takehara K, Kamiura S, Tsuda N, Takei Y, Shigeta S,

Matsumura N, Yoshida H, Motohara T, Watari H, Nakamura K, Ueda A, Tasaka N, Ishikawa M, Hirashima Y, Kudaka W, Taguchi A, Iwata T, Takahashi F, Kukimoto I, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K; MINT Study Group : Human papillomavirus vaccine effectiveness by age at first vaccination among Japanese women. *Cancer Sci*, 113(4):1428-1434, 2022.

・研究分担者 藤井多久磨

Kawasaki R, Kukimoto I, Tsukamoto T, Nishio E, Iwata A, Fujii T: Cervical mucus can be used for metabolite screening in cervical cancer. *Cancer Sci*, 115(11):3672-3681, 2024.

Fujii T, Nishio E, Tsukamoto T, Kukimoto I, Iwata A: Performance of an ancillary test for cervical cancer that measures miRNAs and cytokines in serum and cervical mucus. *Cancer Sci*, 115(8):2795-2807, 2024.

Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T: Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. *J Obstet Gynaecol Res*, 50(7):1073-1094, 2024.

Fujii T : Diagnosis of Cervical Intraepithelial Neoplasia with Special Reference to Roles of Cervical Cytology and Colposcopy. In: Aoki D. (eds) Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer. Comprehensive Gynecology and Obstetrics. Springer, Singapore, page: 85-97, doi: 10.1007/978-981-99-9396-3\_6.

Mitani T, Kukimoto I, Tsukamoto T, Nomura H, Fujii T: A prospective clinical trial of diathermy ablation for patients with high-grade cervical intraepithelial neoplasia from a single institution in Japan. *Sci Rep*, 14:2632, 2024.

Onuki M, Takahashi F, Iwata T, Nakazawa H, Yahata H, Kanao H, Horie K, Konnai K, Nio A, Takehara K, Kamiura S, Tsuda N, Takei Y, Shigeta S, Matsumura N, Yoshida H, Motohara T, Yamazaki H, Nakamura K, Hamanishi J, Tasaka N, Ishikawa M, Hirashima Y, Kudaka W, Mori-Uchino M, Kukimoto I, Fujii T, Watanabe

Y, Noda K, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K; MINT Study Group: Human papillomavirus vaccine impact on invasive cervical cancer in Japan: Preliminary results from cancer statistics and the MINT study. *Cancer Sci*, 114(11):4426-4432, 2023.

藤井多久磨: 子宮頸部円錐切除術 合併症予防の対策. *産婦人科の実際*, 72(12): 1194-1201, 2023.

Kotani K, Iwata A, Kukimoto I, Nishio E, Mitani T, Tsukamoto T, Ichikawa R, Nomura H, Fujii T: Nomogram for predicted probability of cervical cancer and its precursor lesions using miRNA in cervical mucus, HPV genotype and age. *Sci Rep*,12(1): 16231, 2022.

藤井多久磨: 【HPVワクチン勧奨再開-いま知りたいことのすべて】 検診との関係 ワクチン接種を前提とした子宮頸がん検診の将来像. *臨床婦人科産科*,76(8): 800-806, 2022.

藤井多久磨: 世界における HPV ワクチン導入の現状 その効果と日本の現状 2021 年度版. *日本臨床細胞学会雑誌*, 61(4): 227-237,2022.

藤井多久磨: 子宮頸部上皮内腫瘍・子宮頸癌. *週刊日本医事新報*, 5112 :52, 2022.

・研究分担者 宮城悦子

Hirahara Y, Shimizu K, Yamasaki S, Iyoda T, Ueda S, Sato S, Harada J, Saji H, Fujii S, Miyagi Y, Miyagi E, Fujii SI: Crucial immunological roles of the invasion front in innate and adaptive immunity in cervical cancer. *Br J Cancer*, 131(11):1762-1774,2024.

Ushio E, Mizushima T, Sukegawa A, Saigusa Y, Kurasawa K, Iwata A, Aoki S, Ueda Y, Sekine M, Miyagi E: Risk factors for positive cervical cytology during early pregnancy screening and awareness of positive cytological results in Japan: a report from the Pregnant Women Health Initiative. *J Int Med Res*, 52(10):3000605241285548,2024.

宮城悦子:特集一括アップデート! 子どものワクチン・予防接種 IV. 定期接種・任意接種 19. ヒトパピローマウイルス (HPV) ワクチン. *小児科*,65 (10),1035-1039,2024.

Miyagi E, Mizushima T: Is there a need for screening of cervical HPV infections and carcinoma? *Best Pract Res Clin Obstet Gynaecol*, 96: 102522, 2024.

Furuno A, Sukegawa A, Ohshige K, Suzuki Y,

Yamaguchi M, Miyagi E, Ueda Y, Sekine M, Mizushima T: Three-year questionnaire study on human papillomavirus vaccination targeting new female college school students: Follow-up to a 2021 report to reveal the impact of a policy change in Japan. *J Obstet Gynaecol Res*, 50(9): 1640-1648, 2024.

Miyagi E: Human papillomavirus (HPV) vaccination in Japan. *J Obstet Gynaecol Res*, 50(1): 65-71,2024.

宮城悦子:子宮頸がん予防の最新情報. *神奈川医学会雑誌*,51(2), 26-30,2024.

宮城悦子:HPV ワクチンと HPV 検査の課題と展望～子宮頸がんの Elimination を目指して～. *日本臨床検査医学会誌*,72(6):518-523,2024.

宮城悦子:HPV の最近の動向 HPV ワクチンの国際情勢. *日本産科婦人科学会雑誌*,76(5):597-603,2024.

宮城悦子: 地域で考えよう 子宮頸がん と HPV ワクチン 総論 日本における子宮頸がん,HPV ワクチンと子宮がん検診の現状,他の先進国の現状と将来予想,日本との比較. *地域医学*,38(3),157-162, 2024.

宮城悦子:HPV ワクチンについて (3)～HPV ワクチン接種勧奨再開後の動向と子宮頸がん予防の最新情報～. *母性衛生*,64(4):781-786,2024.

Nakagawa S, Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Kakuda M, Hiramatsu K, Miyoshi A, Kimura T, Hirai K, Sekine M, Nakayama T, Kobayashi E, Miyagi E, Enomoto T, Kimura T: Intentions for catch-up HPV vaccination in Japan: an internet survey. *Int J Clin Oncol*, 28(12): 1667-1679, 2023.

宮城悦子: HPV ワクチンについて HPV ワクチンの効果と安全性について. *母性衛生*, 64(2): 456-460, 2023.

宮城悦子: HPV ワクチンについて HPV と子宮頸がん,HPV ワクチンについて. *母性衛生*, 64(1): 257-262, 2023.

宮城悦子, 浦部夢子, 青木大輔, 丹生健一: 【HPV ワクチン推進を目指して】 HPV 関連がんの現状と未来. *日本医師会雑誌*, 151(12): 2049-2060, 2023.

宮城悦子, 水島大一, 助川明子: 【HPV ワクチン推進を目指して】 HPV ワクチンの有効性-国内外のデータ. *日本医師会雑誌*, 151(12): 2079-2082, 2023.

宮城悦子: 子宮頸がん予防～国内外の最新情報～. *大分県臨床細胞学会誌*, 32: 19-23, 2023.

宮城悦子: 【ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチン】HPVワクチン外国の状況. 臨床とウイルス, 51(1): 40-44, 2023.

宮城悦子: 日本の子宮頸がん予防最前線. 日本がん検診・診断学会誌, 30(1): 6-21, 2022.

Maruyama Y, Sukegawa A, Yoshida H, Iwaizumi Y, Nakagawa S, Kino T, Suzuki Y, Kubota K, Hirabuki T, Mizushima T, Miyagi E: Role of cervical cancer screening during prenatal checkups for infectious diseases: A retrospective, descriptive study. J Int Med Res, 50(5): 3000605221097488, 2022.

・研究分担者 中山富雄

中山 富雄: がん検診の功罪 特に過剰診断について. 腫瘍内科, 34(4): 414-417, 2024.

Yagi A, Nakagawa S, Ueda Y, Oka E, Ikeda S, Kakuda M, Kobayashi E, Ito Y, Katayama K, Hirai K, Nakayama T, Kimura T: Effectiveness of catch-up and routine program of the 9-valent vaccine on cervical cancer risk reduction in Japan. Cancer Sci, 115(3):916-925, 2024.

Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T: Cancer screening in Japan 2 years after the COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. Prev Med Rep, 39:102649, 2024.

Nakagawa S, Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Kakuda M, Hiramatsu K, Miyoshi A, Kimura T, Hirai K, Sekine M, Nakayama T, Kobayashi E, Miyagi E, Enomoto T, Kimura T: Intentions for catch-up HPV vaccination in Japan: an internet survey. Int J Clin Oncol, 28(12): 1667-1679, 2023.

中山富雄: これまでのがん検診と将来像—科学的評価を中心に. 総合検診, 50(2): 237-241, 2023.

Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T: Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Glob Oncol, 9:e2200222, 2023.

Hiramatsu K, Ueda Y, Yagi A, Morimoto A, Egawa-Takata T, Nakagawa S, Kobayashi E, Kimura T, Kimura T, Minekawa R, Hori Y, Sato K, Morii E, Nakayama T, Tanaka Y, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H,

Okada H, Nakai H, Matsumura N, Mandai M, Saito J, Horikoshi Y, Takagi T, Enomoto T, Shimura K: The efficacy of human papillomavirus vaccination in young Japanese girls: the interim results of the OCEAN study. Hum Vaccin Immunother, 18(1):1951098, 2022.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄: 精度管理指標によるがん検診の体制整備の評価. 厚生指標, 69(8): 14-22, 2022.

Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Miyoshi A, Nakagawa S, Hiramatsu K, Kobayashi E, Kimura T, Ito Y, Nakayama T, Nakata K, Morishima T, Miyashiro I, Kimura T: Improved long-term survival of corpus cancer in Japan: A 40-year population-based analysis. Int J Cancer, 150(2):232-242, 2022.

・研究分担者 齋藤 豪

Matsuura M, Tamate M, Nagao S, Akimoto T, Kasuga F, Saito K, Shikanai S, Nishimura Y, Teramoto M, Saito T: Human papillomavirus self-sampling and urine-sampling tests and the management and short-term outcomes of cervical intraepithelial neoplasia: A prospective observational study. J Obstet Gynaecol Res, 50(10):1801-1807, 2024.

Nishimura Y, Matsuura M, Terada N, Nagao S, Shimada H, Isoyama K, Tamate M, Iwasaki M, Saito T: Mailing human papillomavirus self-sampling kits to women under-screened for cervical cancer improved detection in cervical cancer screening in a general population study in Japan. BMC Public Health, 23(1):473, 2023.

Terada N, Matsuura M, Kurokawa S, Nishimura Y, Tamate M, Isoyama K, Yamazaki S, Shimada H, Suzuki M, Tabuchi Y, Teramoto M, Saito T: Human papillomavirus testing and cytology using physician-collected uterine cervical samples vs. self-collected vaginal samples and urine samples. Int J Clin Oncol, 27(11): 1742-1749, 2022.

・研究分担者 横山良仁

Ito H, Yokoyama Y, Kyo S, Mandai M, Kosaka K, Kobayashi H, Miyagi E, Onuki M, Matsumoto K, Matsumura N, Umemura K, Ishikawa H, Isaka K: Interim analysis of robotic-assisted radical hysterectomy in Japan:

a multicenter, prospective interventional single-arm clinical trial. *BMC Cancer*, 24: 1360, 2024.

Fukuhara R, Yokoyama Y, Kakogawa J, Koide K, Song Mihyon, Tanabe K, Tsushima R, Makino S, Hasuo Y, Ogita K, Unno N, Kato K, Kimura T : Sexual reproductive health and rights awareness among members of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology. *J Obstet Gynaecol Res*, 50: 1697-1702, 2024.

三上 智香, 重藤 龍比古, 追切 裕江, 松村 由紀子, 横山 良仁: 急速に進行した HPV 非依存性子宮頸部腺癌の一例. *青森県臨床産婦人科医会誌*, 39(1): 27-33, 2024.

Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T: Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. *J Obstet Gynaecol Res*, 50(7):1073-1094, 2024.

・研究分担者 竹原和宏

Hasegawa K, Takahashi S, Ushijima K, Okadome M, Yonemori K, Yokota H, Vergote I, Monk BJ, Tewari KS, Fujiwara K, Li J, Jamil S, Paccaly A, Takehara K, Usami T, Aoki Y, Suzuki N, Kobayashi Y, Yoshida Y, Watari H, Seebach F, Lowy I, Mathias M, Fury MG, Oaknin A : Cemiplimab monotherapy in Japanese patients with recurrent or metastatic cervical cancer. *Cancer Medicine*, 13(18): e70236, 2024.

横山貴紀, 日比野佑美, 藤本悦子, 坂井美佳, 大亀真一, 寺本典弘, 竹原和宏 : CIN3に対するレーザー蒸散術後は長期の経過観察が必要である. *日本婦人科腫瘍学会雑誌*, 42(1):1-5, 2024.

日比野佑美, 横山貴紀, 藤本悦子, 坂井美佳, 大亀真一, 竹原和宏 : コロナ禍における愛媛県の子宮頸がん検診受診状況～がん登録からみた地方の状況. *現代産婦人科*, 72(2) : 245-250, 2024.

Seino M, Nagase S, Tokunaga H, Yamagami W, Kobayashi Y, Tabata T, Kaneuchi M, Hirashima

Y, Niikura H, Yoshino K, Takehara K, Baba T, Katabuchi H, Mikami M : Japan Society of Gynecologic Oncology 2022 guidelines for uterine cervical neoplasm treatment. *Gynecol Oncol*, 35(1):e15, 2024.

Hibino Y, Yokoyama T, Fujimoto E, Okazawa-Sakai M, Okame S, Teramoto N, Takehara K; Abnormal vaginal cytology after total laparoscopic hysterectomy in patients with cervical intraepithelial neoplasia. *Acta Medica Okayama*, 77(6): 627-634, 2024.

Onuk Mi, Takahashi F, Iwata T, Nakazawa H, Yahata H, Kanao H, Horie K, Konnai K, Nio A, Takehara K, Kamiura S, Tsuda N, Takei Y, Shigeta S, Matsumura N, Yoshida H, Motohara T Yamazaki H, Nakamura K, Hamanishi J, Tasaka N, Ishikawa M, Hirashima Y Kudaka W, Mori-Uchino M, Kukimoto I, Fujii T, Watanabe Y, Noda K, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K: the MINT Study Group: Human papillomavirus vaccine impact on invasive cervical cancer in Japan: Preliminary results from cancer statistics and the MINT study. *Cancer Science*, 114(11): 4426-4432, 2023.

Onuki M, Yamamoto K, Yahata H, Kanao H, Yokota H, Kato H, Shimamoto K, Takehara K, Kamiura S, Tsuda N, Takei Y, Shigeta S, Matsumura N, Yoshida H, Motohara T, Watari H, Nakamura K, Ueda A, Tasaka N, Ishikawa M, Hirashima Y, Kudaka W, Taguchi A, Iwata T, Takahashi F, Kukimoto I, Yoshikawa H, Yaegashi N, Matsumoto K; MINT Study Group: Human papillomavirus vaccine effectiveness by age at first vaccination among Japanese women. *Cancer Sci*, 113(4):1428-1434, 2022.

・研究分担者 川名 敬

川名 敬: ヒトパピローマウイルス(HPV)感染症. *臨床泌尿器科*, 78(12):968-973, 2024.

川名 敬:【今知っておきたい性感染症】(Part2.)コンジローマ,性器ヘルペスアップデート ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンアップデート. *Visual Dermatology*, 23(9):856-860, 2024.

川名 敬: ウイルス感染症 ヒトパピローマウイルス. *周産期医学*, 54(5):594-597,2024.

川名 敬:【子宮頸がん撲滅へ向けた戦略-ワクチンと検診の新たなトレンドは?】総論 子宮頸がんの発がん機序とその制御. *臨床婦人科産科*, 78(6):480-488, 2024.

川名 敬: 腫瘍学 CIN治療薬としてのHPV治療ワ

クチンと免疫療法. 臨床婦人科産科, 78(1):148-154, 2024.

Hang S, Haruyama R, Uy K, Fujita N, Kimura T, Koum K, Kawana K: Feasibility, accuracy and acceptability of self-sampled human papillomavirus testing using careHPV in Cambodia: a cross-sectional study. J Gynecol Oncol, 35(1): e6, 2024.

・研究分担者 齊藤英子

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. 日本がん検診・診断学会誌, 31(3):35-41, 2024.

Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D: Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. J Gynecol Oncol, 34(2):e14, 2023.

Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T: Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Glob Oncol, 9:e2200222, 2023.

佐々木寛, 植松孝悦, 明石定子, 植田政嗣, 浦井典子, 大村峯夫, 木口一成, 齊藤英子, 小田瑞恵, 鈴木美香, 杵本朋子, 中井昌弘, 原田成美, 横尾郁子: 2021年度 女性のための健診・予防医療のあり方検討委員会 - 子宮頸がん検診に関するアンケート調査結果 -. 人間ドック, 37(1): 83-103, 2022.

・研究分担者 森定 徹

森定 徹, 青木 大輔: 子宮頸がん検診 - 子宮頸部細胞診単独法と HPV 検査単独法 -. 医学のあゆみ, 292(12):978-984, 2025.

Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M, Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T: Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of

Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. J Obstet Gynaecol Res, 50(7):1073-1094, 2024.

Morisada T, Aoki D : Assessment and Management of Cervical Cancer Screening Programs in Japan. In: Aoki D. (eds) Recent Topics on Prevention, Diagnosis, and Clinical Management of Cervical Cancer. Comprehensive Gynecology and Obstetrics. Springer, Singapore, page: 63-73, doi: 10.1007/978-981-99-9396-3\_4.

森定 徹, 青木大輔: 【エビデンスから見たがん検診】 子宮頸がん検診. 地域医学, 38(2):142-146, 2024.

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. 日本がん検診・診断学会誌, 31(3):35-41, 2024.

森定 徹: HPV 検査を導入した子宮頸がん検診を考える. 日本がん検診・診断学会誌, 30(3):22-26, 2023.

森定 徹: 子宮頸がん HPV 検査の現状と, その問題点. 臨床検査, 67(3):211-215, 2023.

Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D: Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. J Gynecol Oncol, 34(2):e14, 2023.

Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T: Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Glob Oncol, 9:e2200222, 2023.

・研究分担者 高橋宏和

高橋宏和: 精度管理 -がん検診事業のあり方- 医学の歩み, 292(12):944-948, 2025.

加藤勝章, 小池智幸, 青木利佳, 赤羽たけみ, 安保知典, 鎌田智有, 高橋宏和, 山道信毅: 胃がん検診にかかわる実態調査報告. 日本消化器がん検診学会, 62(6):846-876, 2024.

高橋宏和: がん検診事業評価の現状と方向性. 日本乳癌検診学会雑誌, 33(2)別刷, 2024.

Fan, 20(12):28-

高橋宏和：健保組合が取り組む職域のがん検診。健康保険, 9: 6-9, 2024.

Hamashima C, Takahashi H : Cancer screening programs in Japan. Progress and challenges. J Med Screen, 31(4):207-210, 2024.

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子：がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に - . 日本がん検診・診断学会誌, 31(3):35-41, 2024.

Machii R, Takahashi H, Miyazawa J, Nakayama T : Cancer screening in Japan 2 years after the COVID-19 pandemic: Changes in participation, 2017-2021. Prev Med Rep, 39:102649, 2024.

Akiyama M, Ishida N, Takahashi H, Takahashi M, Otsuki A, Sato Y, Saito J, Yaguchi-Saito A, Fujimori M, Kaji Y, Shimazu T : INFORM Study Group. Screening practices of cancer survivors and individuals whose family or friends had a cancer diagnoses-a nationally representative cross-sectional survey in Japan (INFORM Study 2020). J Cancer Surviv, in press, 2023.

Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T : Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. JCO Glob Oncol, 9:e2200222, 2023.

Machii R, Takahashi H : Japanese cancer screening programs during the COVID-19 pandemic: Changes in participation between 2017-2020. Cancer Epidemiol, 82:102313, 2023.

高橋宏和：がん検診の必要性. 厚生労働, 2023.01 Page 10-11.

加藤勝章, 青木利佳, 安保智典, 小田丈二, 小池智幸, 高橋宏和, 平川克哉, 山道信毅：2019 年度胃がん検診偶発症アンケート調査報告. 日本消化器がん検診学会雑誌, 61(1):102-119, 2023.

松本綾希子, 奥山絢子, 後藤温, 町井涼子, 祖父江友孝, 高橋宏和：新型コロナウイルス感染症の流行によるがん医療の受療状況の変化. 日本公衆衛生雑誌, 69(11): 903-907, 2022.

高橋宏和：乳癌検診に関する調査と現状. Rad

Okuyama A, Watabe M, Makoshi R, Takahashi H, Tsukada Y, Higashi T : Impact of the COVID-19 pandemic on the diagnosis of cancer in Japan: analysis of hospital-based cancer registries. Jpn J Clin Oncol, 52(10):1215-1224, 2022.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄:精度管理指標によるがん検診の体制整備の評価. 厚生指標, 69(8): 14-22, 2022.

高橋宏和： COVID-19のがん検診およびがん診療への影響. 日本医師会雑誌, 151(5): 795-799, 2022.

高橋宏和： 職域がん検診の現況と課題. 日本医師会雑誌, 151(5):791-794, 2022.

齋藤義正, 高橋宏和, 若尾文彦:がん対策推進基本計画に基づいたがん化学療法チーム研修の役割. 日本公衆衛生雑誌, 69(7): 527-535, 2022.

Yamada Y, Fujiwara M, Shimazu T, Etoh T, Kodama M, So R, Matsushita T, Yoshimura Y, Horii S, Fujimori M, Takahashi H, Nakaya N, Miyaji T, Hinotsu S, Harada K, Okada H, Uchitomi Y, Yamada N, Inagaki M : Patients' acceptability and implementation outcomes of a case management approach to encourage participation in colorectal cancer screening for people with schizophrenia: a qualitative secondary analysis of a mixed-method randomised clinical trial. BMJ Open, 12(6):e060621, 2022.

Otsuki A, Saito J, Yaguchi-Saito A, Odawara M, Fujimori M, Hayakawa M, Katanoda K, Matsuda T, Matsuoka Y, Takahashi H, Takahashi M, Inoue M, Yoshimi I, Kreps GL, Uchitomi Y, Shimazu T : A nationally representative cross-sectional survey on health information access for consumers in Japan: A protocol for the INFORM Study. World Medical & Health Policy, 14(2):225-275, 2022.

・研究分担者 戸澤晃子

Nishio E, Ishitani K, Arimoto T, Igarashi T, Ishikawa T, Iwase A, Ogawa M, Ozawa N, Kajiyama H, Kawasaki K, Kudo R, Kumakiri J, Komura H, Komai K, Sato S, Shinohara K, Takahashi T, Tanaka K, Tanebe K, Deguchi M, Tozawa-Ono A, Nakashima A, Nakatsuka M, Hayakawa S, Hirata T, Fukuhara R, Miyakuni Y, Miyazaki H, Morisada T, Kuwabara Y, Takenaka M, Shozu M,

Sugiura-Ogasawara M, Maeda T, Yokoyama Y, Fujii T: Guideline for gynecological practice in Japan: Japan Society of Obstetrics and Gynecology and Japan Association of Obstetricians and Gynecologists 2023 edition. *J Obstet Gynaecol Res*, 50(7):1073-1094, 2024.

Ohara T, Kuji S, Takenaga T, Imai H, Endo H, Kanamori R, Takeuchi J, Nagasawa Y, Yokomichi N, Kondo H, Deura I, Tozawa A, Suzuki N: Current state of fertility preservation for adolescent and young adult patients with gynecological cancer. *Int J Clin Oncol*, 27(1): 25-34, 2022.

・研究分担者 雑賀公美子

岡田結生子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 青木大輔, 森定 徹, 齊藤英子: がん検診実施施設における住民検診と職域検診の精度管理状況の違いを克服するための取り組み - 子宮頸がん検診を例に -. *日本がん検診・診断学会誌*, 31(3):35-41, 2024.

Saitoh Aoki E, Saika K, Kiguchi K, Morisada T, Aoki D: Validation of HPV triage in cytology-based cervical cancer screening for ASC-US cases using Japanese data. *J Gynecol Oncol*, 34(2):e14, 2023.

Ogawa T, Takahashi H, Saito H, Sagawa M, Aoki D, Matsuda K, Nakayama T, Kasahara Y, Kato K, Saitoh E, Morisada T, Saika K, Sawada N, Matsumura Y, Sobue T: Novel Algorithm for the Estimation of Cancer Incidence Using Claims Data in Japan: A Feasibility Study. *JCO Glob Oncol*, 9:e2200222, 2023.

・研究分担者 黒川哲司

Chino Y, Onuma T, Ito T, Shinagawa A, Kurokawa T, Orisaka M, Yoshida Y: Human Papillomavirus Self-Sampling for Unscreened Women Aged 24 Years During the COVID-19 Pandemic. *Healthcare (Basel)*, 12(21):2160, 2024.

Ito T, Onuma T, Kurokawa T, Chino Y, Shinagawa A, Yoshida Y: Evaluating Opt-In Vaginal Human Papillomavirus Self-Sampling: Participation Rates and Detection of High-Grade Lesions (CIN2+) among Unscreened Japanese Women Aged 30-39. *Healthcare (Basel)*, 12(5):599, 2024.

Hosokawa S, Norimatsu Y, Nishikawa T,

Suzuki H, Kurokawa T, Shinagawa A, Yanoh K, Maeda Y, Kobayashi TK, Fulciniti F: Staining Pattern of Alcian Blue in Endometrial Cytology: Utility in Distinguishing Grade 1-Endometrial Endometrioid Carcinoma from Endometrial Glandular Stromal Breakdown. *Journal of Cytology*, 41(2):110-115, 2024.

Taro I, Onuma T, Kurokawa T, Chino Y, Shinagawa A, Yoshida Y: Evaluating Opt-In Vaginal Human Papillomavirus Self-Sampling: Participation Rates and Detection of High-Grade Lesions (CIN2+) among Unscreened Japanese Women Aged 30-39. *Healthcare (Basel)*, 12(5):599, 2024.

Ozawa N, Kurokawa T, Hareyama H, Tanaka H, Satoh M, Metoki H, Suzuki M: Evaluation of the feasibility of human papillomavirus sponge-type self-sampling device at Japanese colposcopy clinics. *J Obstet Gynaecol Res*, 49(2):701-708, 2023.

黒川 哲司, 大沼 利通, 品川 明子, 知野 陽子, 吉田 好雄: 未受診者対策としての自己採取 HPV 検査. *総合健診*, 49(5): 544-547, 2022.

Oishi T, Kigawa J, Iwanari O, Kasai T, Kurokawa T, Hamada M, Fujita H, Fujiwara H, Yokoyama M, Sakuragi N, Harada T, Suzuki M: Is cytology/HPV co-testing for cervical cancer screening useful in Japan? *Int J Gynaecol Obstet*, 158(1):187-193, 2022.

・研究分担者 上田 豊

Ushio E, Mizushima T, Sukegawa A, Saigusa Y, Kurasawa K, Iwata A, Aoki S, Ueda Y, Sekine M, Miyagi E: Risk factors for positive cervical cytology during early pregnancy screening and awareness of positive cytological results in Japan: a report from the Pregnant Women Health Initiative. *J Int Med Res*, 52(10):3000605241285548, 2024.

Furuno A, Sukegawa A, Ohshige K, Suzuki Y, Yamaguchi M, Miyagi E, Ueda Y, Sekine M, Mizushima T: Three-year questionnaire study on human papillomavirus vaccination targeting new female college school students: Follow-up to a 2021 report to reveal the impact of a policy change in Japan. *J Obstet Gynaecol Res*, 50(9): 1640-1648, 2024.

Yagi A, Nakagawa S, Ueda Y, Oka E, Ikeda S, Kakuda M, Kobayashi E, Ito Y, Katayama K, Hirai K, Nakayama T, Kimura T: Effectiveness of catch-up and routine program

of the 9-valent vaccine on cervical cancer risk reduction in Japan. *Cancer Sci*, 115(3):916-925,2024.

Nakagawa S, Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Kakuda M, Hiramatsu K, Miyoshi A, Kimura T, Hirai K, Sekine M, Nakayama T, Kobayashi E, Miyagi E, Enomoto T, Kimura T : Intentions for catch-up HPV vaccination in Japan: an internet survey. *Int J Clin Oncol*, 28(12): 1667-1679, 2023.

Hiramatsu K, Ueda Y, Yagi A, Morimoto A, Egawa-Takata T, Nakagawa S, Kobayashi E, Kimura T, Kimura T, Minekawa R, Hori Y, Sato K, Morii E, Nakayama T, Tanaka Y, Terai Y, Ohmichi M, Ichimura T, Sumi T, Murata H, Okada H, Nakai H, Matsumura N, Mandai M, Saito J, Horikoshi Y, Takagi T, Enomoto T, Shimura K : The efficacy of human papillomavirus vaccination in young Japanese girls: the interim results of the OCEAN study. *Hum Vaccin Immunother*, 18(1):1951098, 2022.

Yagi A, Ueda Y, Ikeda S, Miyoshi A, Nakagawa S, Hiramatsu K, Kobayashi E, Kimura T, Ito Y, Nakayama T, Nakata K, Morishima T, Miyashiro I, Kimura T : Improved long-term survival of corpus cancer in Japan: A 40-year population-based analysis. *Int J Cancer*, 150(2):232-242, 2022.

・研究分担者 西尾 浩

Katoh Y, Kubo A, Hayashi N, Sugi T, Katoh K, Udagawa S, Ogawa T, Iwata T, Nishio H, Sugawara M, Hirai S, Kawana K : Serum levels of stearic and dihomo- $\gamma$ -linolenic acids can be used to diagnose cervical cancer and cervical intraepithelial neoplasia. *Sci Rep*,14:20833, 2024.

西尾 浩, 松田 理沙, 山上 亘 : 子宮頸癌に対する妊孕能温存治療の実際. *東京産婦人科医会誌*,57:92-96, 2024.

西尾 浩:【婦人科がん治療における免疫チェックポイント阻害薬】子宮頸がんに対する免疫チェックポイント阻害薬の現況. *日本産科婦人科学会雑誌*,76(4):501-505, 2024.

## 2. 学会発表

・研究代表者 青木大輔

青木 大輔:【特別講演】対策型検診としての子宮頸がん検診. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉) ,2024/11.

森定 徹, 寺本 勝寛, 端 晶彦, 高野 浩邦, 小林陽一, 佐々木 寛, 青木 大輔:【シンポジウム】HPV 検査単独法における HPV 陽性者のトリアージとしての細胞診. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉) ,2024/11.

Saitoh-Aoki E, Morisada T, Saika K, Aoki D : Systematic Review of Candidate Algorithms for implementing of HPV Testing in Japan ' s Population-Based Cervical Cancer Screening. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Development of a Manual for the Management of HPV Primary Screening in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Machii R, Morisada T, Aoki D : One of the Best Uses of the Checklist in Cervical Cancer Screening. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Determination of the algorithm for cervical cancer screening based on the results of the implementation study. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to screening algorithm among screen-positive women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

青木大輔:【特別講演】自治体が提供する対策型検診における HPV 検査単独法による子宮頸がん検診の課題. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (弘前),2024/10.

森定徹, 寺本勝寛, 端晶彦, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔:【シンポジウム】HPV 検診を検証する RCT における HPV 陽性・細胞診陰性

例について. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (弘前),2024/10.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: 住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へー職域検診用「事業評価のためのチェックリスト (検診機関用)」の作成ー. 第 32 回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

雑賀 公美子, 齊藤 英子, 森定 徹, 青木 大輔: 【ワークショップ】HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? HPV 検査を子宮頸がん検診に組込む際の検査判定施設の充足状況. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島),2024/07.

森定 徹, 雑賀 公美子, 齊藤 英子, 中山 富雄, 小林 陽一, 青木 大輔: 【ワークショップ】HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? 指針に基づく HPV 検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島),2024/07.

森定 徹, 寺本 勝寛, 端 晶彦, 高野 浩邦, 小林 陽一, 佐々木 寛, 青木 大輔: HPV 検査を用いた子宮頸がん検診を検証する CITRUS スタディの最終報告. 第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会(大阪), 2024/06.

齊藤英子, 雑賀公美子, 青木大輔: 全国がん登録との比較からみた、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録による子宮頸部悪性病変の症例把握状況. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔: 【シンポジウム】「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第 31 回日本 CT 検診学会学術集会(名古屋) , 2024/03.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D: Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D: Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 1. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the

case of Japan. Part 2. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) , 2023/12.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D: Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Is cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM vs. ASC-US in HPV-positive cases. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023)(Seoul),2023/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

青木大輔: 【基調講演】今後の子宮頸がん検診プログラムの動向とそのマネージメント. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定 徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔: 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 中山富雄, 小林 陽一, 青木大輔: 【シンポジウム】 HPV 検診単独検診を見据えた際の HPV 検査・細胞診の役割. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 青木大輔, 雑賀公美子: 子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文献的検索. 第 13 回国際医療福祉大学学会学術大会(成田), 2023/09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定 徹, 青木大輔: 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (松江), 2023/07.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

Nisho H, Morisada T, Kawana K, Nagase S, Iwata T, Yamagami Y, Aoki D : 【国際フォーラム】 Evidence review and current situation of abnormal cancer screening in Japan. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔 : 子宮頸がん検診における子宮頸部異常の発見率の特徴. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

青木大輔 : 【特別講演】 婦人科のがんについて～予防、早期発見と治療～. 赤坂山王メディカルセンター/国際医療福祉大学東京赤坂キャンパス共催市民公開講座(東京), 2023/05.

齊藤英子, 小田瑞恵, 木口一成, 佐々木 寛, 青木大輔 : 検診機関における検診委託元別の子宮頸がん検診の精度管理状況—チェックリスト充足率からの検討—. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔 : HPV 検診の有用性を検証するコホート研究における HPV 陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

青木大輔 : 【招待講演】 がん対策と婦人科がん. 2023年岩手産科婦人科学会総会(盛岡), 2023/04.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Aoki D : Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan : 35th International Papillomavirus Conference(Washington D.C.), 2023/04.

青木大輔 : 【招待講演】 HPV ワクチンの現況. 新宿区医師会 HPV ワクチン学術講演会 (Web), 2022/11.

森定 徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔 : シンポジウム HPV 検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台), 2022/11.

西尾 浩, 岩田 卓, 青木大輔 : 【シンポジウム】 Evidence に基づく細胞診陰性 HPV 陽性症例の取り扱い. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台), 2022/11.

青木大輔 : 【招待講演】 日本の子宮頸がん検診のあり方. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(横浜), 2022/10.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔 : 地域住民検診における子宮頸がんおよび CIN の発見率の推移. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(横浜), 2022/10.

森定 徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木 寛, 青木大輔 : シンポジウム CITRUS 研究 (RCT) の進捗と HPV 検診に向けて準備すべきこと. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(横浜), 2022/10.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔 : 市区町村における子宮頸がん検診の実施状況の年次推移. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会 (Web), 2022/09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 小田瑞恵, 木口一成, 明石定子, 中井昌弘, 原田成美, 植松孝悦, 佐々木寛, 青木大輔 : 検診機関における検診委託元別のがん検診制度管理状況 —子宮頸がん検診・乳がん検診での検討—. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会 (Web), 2022/09.

青木大輔 : 【要望講演】 子宮頸がん検診における HPV 検査導入に際して. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会(千葉), 2022/09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 木口一成, 久布白兼行, 森定 徹, 青木大輔 : わが国のデータによる細胞診による子宮頸がん検診での ASC-US 症例への HPV トリアージの妥当性の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会(福岡), 2022/08.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔 : HPV 検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会(福岡), 2022/08.

青木大輔 : 【招待講演】 HPV ワクチンの現況. 第 10 回玉川・世田谷区産婦人科医会合同学術講演会 ～医師・コメディカルの皆様へ～ (Web), 2022/07.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔 : HPV 検査を用いた検診の有用性を検証する研究における検診陰性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(久留米), 2022/07.

森定 徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔 : 実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/06.

西尾 浩, 岩田 卓, 青木大輔: シンポジウム 子宮頸部細胞診において AGC と診断された症例の最終診断とその問題点. 第63回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/06.

・研究分担者 八重樫伸生

萩原達也, 島田宗昭, 橋本栄文, 遠藤 俊, 清水孝規, 宮原周子, 湊 敬道, 湊 純子, 渋谷祐介, 石橋ますみ, 重田昌吾, 橋本千明, 永井智之, 徳永 英樹, 八重樫伸生: ワイドターゲットメタボロミクスによる子宮頸癌の診断および放射線感受性予測バイオマーカーの同定. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(久留米), 2022/07.

岡本 聡, 徳永英樹, 宮原周子, 新倉 仁, 石橋ますみ, 渡辺みか, 島田宗明, 八重樫伸生: 子宮頸部腺系病変検出における p16INK4a/Ki67 二重免疫染色の有用性. 第63回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/06.

・研究分担者 藤井多久磨

藤井多久磨: 子宮頸部細胞診のピットフォール. 令和6年度愛知県がん検診従事者講習会 細胞診断従事者講習会(開催: 愛知県がんセンター)(Web), 2025/02.

Fujii T, Kawasaki R, Kukimoto I, Tsukamoto T, Nishio E, Iwata A: Cervical mucus can be used for metabolite screening in cervical cancer. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Fujii T, Nishio E, Kukimoto I, Iwata A: Performance of an ancillary test for cervical cancer that measures miRNAs and cytokines in serum and cervical mucus. The IGCS 2024 (International Gynecologic Cancer Society) conference(Ireland), 2024/10.

Fujii T: IFCPC Joint Session 1 (Pre-congress Workshop) - Colposcopy, Essential examination JS1-2 - Enhancing Clinical Proficiency in Cervical Neoplasia Management: Challenges and Strategies for Detecting Glandular and Vaginal Lesions. 2024 AOGIN (Asia-Oceania Research Organization in Genital Infection and Neoplasia)(Korea), 2024/07.

Fujii T: International Workshop: A prospective clinical trial of diathermy ablation for patients with high-grade cervical intraepithelial neoplasia from a single institution. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(鹿児島), 2024/07.

藤井多久磨: 女性の健康～子宮頸がんの予防法～.

岡崎市医師会健康教育講座(愛知), 2024/06.

藤井多久磨:【特別講演】子宮頸部細胞診～婦人科医からの視点. 第178回日本臨床細胞学会東海連合会例会(名古屋), 2024/06.

藤井多久磨:【生涯研修プログラム】CINの管理 コルポスコピーのpit fall. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

Fujii T, Kawasaki R, Nishio E, Iwata A: Metabolomic profiling of cervical mucus for diagnosis in cervical neoplasia. EUROGIN 2024 International multidisciplinary HPV congress (Sweden), 2024/03.

藤井多久磨: 患者さんにも病院にも優しいVIO3を用いた円錐切除術. 第2回コルポスコピー研修会(主催: 日本婦人科腫瘍学会 子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会)(東京), 2024/03.

藤井多久磨: 腺系病変に認められるコルポスコピー所見. 第2回コルポスコピー研修会(主催: 日本婦人科腫瘍学会 子宮頸部病理・コルポスコピー小委員会)(東京), 2024/03.

Fujii T: Current status of cervical cancer in Japan and colposcopy education initiatives in JSGO. I.F.C.P.C (International Federation of Cervical Pathology and Colposcopy) 18th World Congress(Colombia), 2023/11.

藤井多久磨:【教育講演】コルポスコピー 基礎から応用まで. 第62回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

藤井多久磨: 「子宮頸部病理・コルポスコピー」の分野について考える. 第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

藤井多久磨:【会長講演】臨床と研究のはざままで—細胞でワクワクしよう、技術を極め、次世代に伝える—. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

柚木浩良, 杉山宗平, 藤田智洋, 藤井多久磨: 愛知県臨床細胞学会アンケート調査結果報告. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

杉山宗平, 柚木浩良, 藤田智洋, 藤井多久磨: 婦人科細胞診におけるコミュニケーション問題と医療安全について. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

藤井多久磨:【特別講演】子宮頸がん検診とHPVワクチンに関する最近の話題 婦人科医から他専門の先生へのメッセージ. 名古屋市3医師会共催 HPV学術講演会(Web), 2023/06.

藤井多久磨：産婦人科診療ガイドラインの作成における現状と課題—婦人科外来編—。第75回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

藤井多久磨：【特別講演】子宮頸がん検診とHPVワクチンに関する最近の話題。愛知県産婦人科医学会第2回学術研修会(三河地区)(愛知), 2023/04.

藤井多久磨：子宮頸がん検診とHPVワクチンに関する最近の話題。群馬産科婦人科学会・群馬県産婦人科医学会 令和4年度 第2回(第177回)集談会,(群馬), 2022/ 11.

藤井多久磨, 川原莉奈, 野村弘行： Ancillary testing for cervical cancer using metabolic changes in vaginal mucusメタボローム解析を応用した子宮頸がんの補助診断法の開発。第81回日本癌学会学術総会(横浜), 2022/ 09.

藤井多久磨：日本人を子宮頸がんから救うために我々ができること — コルポスコプから見えてくる世界 —。令和4年度 子宮がん検診均てん化研修会(鹿児島), 2022/09.

藤井多久磨:細胞診専門医会総会 細胞診専門医セミナー 子宮頸がん検診—HPV 検査導入に向けた課題と将来展望。第63回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/06.

小谷燦璃古, 市川亮子, 野村宏行, 藤井多久磨:子宮頸がんおよびその前がん病変に対する補助診断法の開発。第9回婦人科がんバイオマーカー研究会学術集会(岡山), 2022/05.

#### ・研究分担者 宮城悦子

宮城悦子:子宮頸がん予防の最新情報～検診とHPVワクチンについて～。第42回福島県臨床細胞学会総会ならびに学術集会(郡山), 2024/10.

宮城悦子:包括的子宮頸がん予防の動向(HPVワクチンを含めて)。第32回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

宮城悦子:子宮頸がん予防の最前線～周産期関連情報を含めて～。第21回北海道周産期談話会第29回北海道周産期研修会(札幌), 2024/06.

宮城悦子, 折館伸彦:HPVワクチンによるHPV関連がんの予防—男性への定期接種に向けて。第125回日本耳鼻咽喉科頭頸部外科学会総会・学術講演会(大阪), 2024/05.

宮城悦子: HPV 関連疾患としての子宮頸がん予防。第435回ICD講習会(東京), 2023/12.

宮城悦子:HPV ワクチンの定期接種・キャッチアップ接種の推進に向けて。第146回関東連合産科婦人科学会学術集会(浜松) 2023/11.

宮城悦子：【シンポジウム】子宮頸がん排除に向かかって～日本の課題～。第62回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

宮城悦子：子宮頸がん予防の最新情報(プレナリーセッション)。第65回神奈川医学会総会・学術大会, 2023/11.

宮城悦子：【講演】子宮頸がん予防 2023～日本の立ち位置は？～。横浜市立大学市民医療講座(横浜), 2023/11.

宮城悦子:【講演】子宮頸がんの発症を予防するワクチン。国際医療福祉大学大学院 多職種協働市民公開シンポジウム(東京), 2023/10.

宮城悦子:【講演】日本の子宮頸がん予防を考える。令和5年度 職場の健康管理担当者研修会(横浜), 2023/10.

宮城悦子:【講演】子宮頸がん予防 2023. 第576回医学研修の日(横浜), 2023/09.

宮城悦子:【講演】子宮頸がん予防最新情報。日本大学薬学部講義(船橋), 2023/09.

宮城悦子:【講演】子宮頸がん予防最新情報～日本の課題は？～。市民公開講座 HPV ワクチンのお話(高知), 2023/09.

古野敦子, 助川明子, 鈴木幸雄, 水島大一, 宮城悦子:2021年度,2022年度医学部新入生の子宮頸がん予防に対する意識調査。第75回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

八木麻未, 上田豊, 池田さやか, 関根正幸, 宮城悦子, 榎本隆之, 木村正:HPVワクチン積極的勧奨差し控えの弊害解消に必要なキャッチアップ接種率の検証。第75回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

Miyagi E, on behalf of the Japan Society of Obstetrics and Gynecology: Breaking News: Drastic Changes in HPV Vaccination Policy in Japan. 35th International Papillomavirus Conference(Washington D.C.), 2023/04.

Miyagi E:【シンポジウム】 Discussion on HPV primary screening in Japan. Asia Oceania Research of Genital Infection and Neoplasia (AOGIN)(Thailand), 2022/11.

宮城悦子:【会長講演】日本の子宮頸がん予防～先進国の一員としての責務を果たすために～。第31

回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(横浜), 2022/10.

宮城悦子:【特別講演】子宮頸がん予防～日本の課題～. 第63回日本人間ドック学会学術大会(千葉), 2022/09.

宮城悦子:【特別講演】子宮頸がん予防の未来. 日本臨床細胞学会第82回細胞検査士教育セミナー(Web), 2022/08.

Maruyama Y, Sukegawa A, Suzuki Y, Mizushima T, Miyagi E: Role of Cervical Cancer Screening during Prenatal Checkups for Infectious Diseases: A Retrospective, Descriptive Study. 第64回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(久留米), 2022/07.

宮城悦子:産婦人科領域講習 日本の子宮頸がん予防の未来を考える. 第41回東京都臨床細胞学会学術集会(東京), 2022/07.

宮城悦子:【特別講演】HPVワクチンと検診による子宮頸がん予防最新情報. 第36回日本臨床細胞学会中国四国連合会総会・学術集会(松江), 2022/07.

宮城悦子:日本の子宮頸がん予防2022. 宮崎県産婦人科学会・医会/春季総会(Web), 2022/04.

・研究分担者 中山富雄

榎本建志, 細野覚代, 三村麻子, 宮澤 仁, 町井涼子, 山崎恭子, 八巻知香子, 中山富雄:「患者・市民パネル」におけるリスク層別化がん剣士の受容可能性等に関する質的研究. 第83回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

難波俊文, 細野覚代, 町井涼子, 中山富雄:対策型検診へのHPV検査導入において求められる情報提供とは:混合研究法による検討. 第83回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

森定 徹, 雑賀 公美子, 齊藤 英子, 中山 富雄, 小林 陽一, 青木 大輔:【ワークショップ】HPV検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? 指針に基づくHPV検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(鹿児島), 2024/07.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔:【シンポジウム】「HPV単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第31回日本CT検診学会学術集会(名古屋), 2024/03.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D: Role of

Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei), 2023/12.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄:「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第82回日本公衆衛生学会総会(つくば), 2023/11.

宮澤仁, 町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄:新型コロナウイルス感染症拡大期における、がん検診の精密検査受診への影響の分析. 第82回日本公衆衛生学会総会(つくば), 2023/11.

中山富雄:【シンポジウム】がん検診とは何か? 国家的プログラムの要件. 第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齋藤英子, 雑賀公美子, 森定 徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔:日本の現状は、子宮頸がん検診でHPV検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔:【シンポジウム】HPV検診単独検診を見据えた際のHPV検査・細胞診の役割. 第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

中山富雄:【要望講演】子宮頸がん検診に関する最近の動向ー海外と日本ー. 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

中山富雄:【シンポジウム】わが国の子宮頸がん検診に求められる精度管理を含めた運用体制について. 第31回日本婦人科がん検診学会総会(横浜), 2022/10.

中山富雄:【要望講演】がん検診における細胞診の意義.ー子宮頸がん、肺がんを中心にー. 第63回日本人間ドック学会学術大会(千葉), 2022/09.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔:HPV検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況の検討. 第74回日本産科婦人科学会学術講演会(福岡), 2022/08.

・研究分担者 横山良仁

追切裕江, 横山良仁 他:子宮頸癌(扁平上皮癌)との鑑別に苦慮した膀胱癌(移行上皮癌)の一例. 第42回青森県臨床細胞学会(青森), 2025/03.

横山良仁:【シンポジウム】子宮体癌の新進行期分類 (FIGO2023)を考える:新 FIGO 分類から考えた日産婦分類改訂の展望. 第63回日本臨床細胞学会総会秋期大会(千葉),2024/11.

横山良仁:【会長講演】子宮体がん腹腔洗浄細胞診の意義. 第33回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(弘前),2024/10.

永沢 崇幸, 庄子 忠宏, 千葉 洋平, 佐藤 翔, 高取 恵里子, 海道 善隆, 利部 正裕, 重藤 龍比古, 清水 大, 馬場 長, 杉山 徹, 横山 良仁: 再発子宮頸部非扁平上皮癌患者に対する S-1/オキサリプラチン (SOX 療法)の第 II 相試験(TGCU206 study). 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜),2024/04.

・研究分担者 竹原和宏

Matsumoto T, Kondo E, Imai Y, Igura K, Nomura H, Kanao H, Kudo R, Yoshihara K, Hibino Y, Takehara K, Hamasaki K, Yamamoto K, Yamaguchi S : Effectiveness of adjuvant chemotherapy after pulmonary metastasectomy in recurrent uterine cervical cancer with oligo-metastasis : A multi center retrospective study. 第62回日本癌治療学会学術集会 (福岡), 2024/10.

鈴木史朗, 宇佐美知香, 竹原和宏, 渡利英道, 西尾真, 馬場 長, 西尾 浩, 平良祐介, 小林陽一, 上浦祥司, 園田頭三, 堀江弘二, 加藤眞吾, 丸子武史, 山本景子, 井上耕平, Yamada Karin, Lorusso Domenica, 長谷川 幸清: 婦人科がん免疫療法におけるnext innovation 高リスク局所進行子宮頸がん患者を対象としたKEYNOTE-A18の日本人部分集団解析 (Pembrolizumab Plus Concurrent Chemoradiotherapy for High-risk Locally Advanced Cervical Cancer: Japanese Subgroup Analysis From the Phase 3 ENGOT-cx11/GOG-3047/KEYNOTE-A18 study). 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(鹿児島), 2024/07.

Kara Romano, Gabriella Macchia, Melissa Christiaens, Susan Lalondrelle, Xiang Zhang, Andréia Cristina De Melo, Klaudia Reginacova, Limor Helpman, Ali Ayhan, Flora Zagouri, Linn Woelber, Kristina Hellman, Nicoletta Colombo, Margarita Romeo Marin, Regina Berger, Emma Fields, Karla Alejandra Lopez, Vincent Castonguay, Kazuhiro Takehara, Ting-Chang Chang, Karin Yamada, Martina Puglisi, Kan Li, Annamaria Cerrotta, Domenica Lorusso : A Phase 3 Study of Pembrolizumab (Pembro) + Chemoradiotherapy (CCRT) for High-Risk Locally Advanced Cervical Cancer (LACC)(2024 World Congress of Brachytherapy (National Harbor), 2024/07.

Gabriella Macchia, Annamaria Cerrotta, Melissa Christiaens, Susan Lalondrelle, Xiang Zhang, Andréia Cristina De Melo, Klaudia Reginacova, Limor Helpman, Ali Ayhan, Flora Zagouri, Linn Woelber, Kristina Hellman, Nicoletta Colombo, Margarita Romeo Marin, Regina Berger, Karla Alejandra Lopez, Vincent Castonguay, Kazuhiro Takehara, Ting-Chang Chang, Karin Yamada, Sarper Toker, Kan Li, Domenica Lorusso : A Phase 3 study of pembrolizumab plus chemotherapy for high-risk locally advanced cervical cancer: Results from ENGOT-CX11/GOG-3047/KEYNOTE-A18. AIRO2024 (Milano), 2024/06.

日比野佑美, 横山貴紀, 藤本悦子, 坂井美佳, 大亀真一, 竹原和宏: コロナ禍における愛媛県の子宮頸がん診療の状況. 第76回愛媛県産婦人科医学会学術集談会(松山), 2024/06.

Annamaria Cerrotta, Gabriella Macchia, Melissa Christiaens, Susan Lalondrelle, Xiang Zhang, Andréia Cristina De Melo, Klaudia Reginacova, Limor Helpman, Ali Ayhan, Flora Zagouri, Linn Woelber, Kristina Hellman, Nicoletta Colombo, Margarita Romeo Marin, Regina Berger, GOG author TBC, Karla Alejandra Lopez, Vincent Castonguay, Kazuhiro Takehara, Ting-Chang Chang, Karin Yamada, Sarper Toker, Kan Li, Domenica Lorusso, GOG author TBC : A Phase 3 Study of Pembrolizumab + Chemoradiotherapy for High-Risk Locally Advanced Cervical Cancer. ESTRO2024(Glasgow), 2024/05.

藤本悦子,日比野佑美, 横山貴紀, 坂井美佳, 大亀真一, 竹原和宏: 進行再発子宮頸癌に対して Pembrolizumab併用化学療法を施行した12症例の検討. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(東京). 2024/04.

大亀真一, 坂井美佳, 藤本悦子, 横山貴紀, 日比野佑美, 竹原和宏: 子宮頸癌IVB期の治療方針. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(東京). 2024/04.

・研究分担者 川名 敬

川名 敬: 【要望講演】HPV関連腫瘍から見た子宮頸癌 HPV発癌のさらなる解明とワクチンの進歩. 第63回日本臨床細胞学会総会秋期大会(千葉), 2024/11.

川名 敬: HPV 関連中咽頭癌・婦人科癌 HPV 発癌メカニズムに基づいた子宮頸癌の新規免疫療法. 第62回日本癌治療学会学術集会(福岡), 2024/10.

川名 敬：革新的な婦人科感染症の治療戦略の提唱 そのモデルとしての HPV 予防・治療ワクチン. 第 40 回日本婦人科感染症学会(東京), 2024/05.

川名 敬：HPV の発癌機序と宿主免疫制御から見た子宮頸癌に対する免疫療法の新展開. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会 (東京). 2024/04.

川名 敬：新興・再興感染症への対応 ～臨床現場で起こっていることを整理する. 第 143 回東海産科婦人科学会 (名古屋), 2024/03.

・研究分担者 齊藤英子

佐野弘子, 齊藤英子, 永吉陽子, 上田 和, 進 伸幸, 相田真介: 当院における子宮頸部細胞診 ASC-H 判定の妥当性の検討—生検結果の追跡—. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Morisada T, Saika K, Aoki D : Systematic Review of Candidate Algorithms for implementing of HPV Testing in Japan ' s Population-Based Cervical Cancer Screening. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Development of a Manual for the Management of HPV Primary Screening in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Machii R, Morisada T, Aoki D : One of the Best Uses of the Checklist in Cervical Cancer Screening. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Determination of the algorithm for cervical cancer screening based on the results of the implementation study. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to screening algorithm among screen-positive

women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

齊藤英子, 雑賀公美子：子宮頸がん検診における HPV 検査単独法のアルゴリズム【報告 1】. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

雑賀公美子, 齊藤英子：子宮頸がん検診における HPV 検査単独法のアルゴリズム【報告 2】. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子：職域がん検診実施施設での精度管理実施状況調査の実施可能性に関する検討. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, Misha Coleman, Hannah Saunders, Marion Saville：【ワークショップ】精度管理向上の理念を含有する自己採取 HPV 検査提供のあり方—オーストラリアのストラテジーから—. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (弘前), 2024/10.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和：住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へ—職域検診用「事業評価のためのチェックリスト (検診機関用)」の作成—. 第 32 回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 斎藤博, 松坂方士: 住民検診での都道府県別精検受診率の比較—子宮頸がん検診と乳がん検診—公表データを用いた分析. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

雑賀 公美子, 齊藤 英子, 森定 徹, 青木 大輔：【ワークショップ】 HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? HPV 検査を子宮頸がん検診に組込む際の検査判定施設の充足状況. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

森定 徹, 雑賀 公美子, 齊藤 英子, 中山 富雄, 小林 陽一, 青木 大輔：【ワークショップ】 HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? 指針に基づく HPV 検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

齊藤英子, 小田瑞恵, 佐々木寛：【ワークショップ】 HPV 検査単独法による子宮頸がん検診—さまざまな委託元へのがん検診提供を念頭においた場合の留意点—. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

齊藤英子, 雑賀公美子, 青木大輔: 全国がん登録との比較からみた、日本産科婦人科学会婦人科腫瘍登録による子宮頸部悪性病変の症例把握状況. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔: 【シンポジウム】「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第 31 回日本 CT 検診学会学術集会(名古屋), 2024/03.

富田圭祐, 齊藤英子, 五十嵐歩惟, 磯前有香, 永吉陽子, 上田和, 桂研一郎: 当院での子宮頸がん検診における要精検者の精検受診率向上のためのシームレス勧奨. 第 38 回日本女性医学学会学術集会(徳島), 2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 2. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023)(Taipei), 2023/12.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D: Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 1. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023)(Taipei), 2023/12.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D: Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023)(Taipei), 2023/12.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D: Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023)(Taipei), 2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D: Is cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM vs. ASC-US in HPV-positive cases. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023)(Seoul), 2023/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

齊藤英子: 【シンポジウム】がん検診の評価指標の「可視化プロジェクト」—精検受診率について—. 第 82 回日本公衆衛生学会総会(つくば), 2023/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔: 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: 【シンポジウム】HPV 検診単独検診を見据えた際の HPV 検査・細胞診の役割. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

小田瑞恵, 齊藤英子, 佐々木寛: 【シンポジウム】子宮頸がん検診における HPV 検査の役割 — HPV 検査導入に向けたアルゴリズムの試案—. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 青木大輔, 雑賀公美子: 子宮頸部上皮内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補についての文献的検索. 第 13 回国際医療福祉大学学会学術大会(成田), 2023/09.

齊藤英子: 【シンポジウム】職域がん検診はどう変わるか、変えていくか?職域におけるがん検診に関するマニュアルに基づく検診実施機関の精度管理. 第 64 回日本人間ドック学会学術大会(高崎), 2023/09.

磯前 有香, 齊藤英子, 五十嵐歩惟, 桂研一郎: 子宮頸がん検診要精検者における確実な精検受診実現のためのワンストップ勧奨. 第 64 回日本人間ドック学会学術大会(高崎), 2023/09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定徹, 青木大輔: 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(松江), 2023/07.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

齊藤英子, 木口一成, 小田瑞恵, 植田政嗣, 佐々木寛: 検診機関用チェックリスト調査から見える子宮頸がん検診での細胞診精度管理の課題. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔: 子宮頸がん検診における子宮頸部異常の発見率の特徴. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (名古屋), 2023/06.

齊藤英子, 小田瑞恵, 木口一成, 佐々木 寛, 青木大輔: 検診機関における検診委託元別の子宮頸がん検診の精度管理状況—チェックリスト充足率からの検討—. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検診の有用性を検証するコホート研究における HPV 陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Aoki D : Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan : 35th International Papillomavirus Conference(Washington D.C.), 2023/04.

齊藤英子, 小林沙央里, 永吉陽子, 富田圭祐, 上田和, 桂研一郎: 子宮頸がん検診における検診間隔, 対象者の妥当性についての検討. 第 37 回日本女性医学学会総会 (米子), 2022/11.

雑賀久美子, 齊藤英子, 斎藤博: 子宮頸がん検診の精検受診の課題—自治体格差や年齢格差について—. 第 37 回日本女性医学学会総会 (米子), 2022/11.

森定 徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: シンポジウム HPV 検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台), 2022/11.

佐野弘子, 齊藤英子, 進伸幸, 西井しのぶ, 星井佑太, 阿部仁美, 松崎佳子, 増田友紀江, 戸来安那, 相田真莉奈, 上田和, 永吉陽子, 相田真介: 当院における子宮頸部細胞診 AGC(atypical glandular cells) 判定の検討. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会 (仙台), 2022/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔: 地域住民検診における子宮頸がんおよび CIN の発見率の推移. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜), 2022/ 10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 斎藤博: 神奈川県下自治体での子宮頸がん検診の精検受診の実状と改善のための具体策について. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜), 2022/ 10.

森定 徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺

本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木 寛, 青木大輔: シンポジウム CITRUS 研究 (RCT) の進捗と HPV 検診に向けて準備すべきこと. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜), 2022/ 10.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定 徹, 青木大輔: 市区町村における子宮頸がん検診の実施状況の年次推移. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会 (Web), 2022/ 09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 小田瑞恵, 木口一成, 明石定子, 中井昌弘, 原田成美, 植松孝悦, 佐々木寛, 青木大輔: 検診機関における検診委託元別のがん検診制度管理状況—子宮頸がん検診・乳がん検診での検討—. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会 (Web), 2022/ 09.

小林沙央里, 齊藤英子, 富樫理子, 桂研一郎: 子宮頸がん検診における検診間隔についての受診者の記憶の妥当性の検討. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会 (千葉), 2022/ 09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 木口一成, 久布白兼行, 森定 徹, 青木大輔: わが国のデータによる細胞診による子宮頸がん検診での ASC-US 症例への HPV トリアージの妥当性の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 (福岡), 2022/ 08.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 (福岡), 2022/ 08.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検査を用いた検診の有用性を検証する研究における検診陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (久留米), 2022/ 07.

齊藤英子: HPV 単独法 (HPV primary screening) を念頭に置いた精度管理 (マネジメント) の課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (東京), 2022/ 06.

森定 徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/ 06.

佐野弘子, 齊藤英子, 進伸幸, 西井しのぶ, 星井佑太, 阿部仁美, 松崎佳子, 上田和, 永吉陽子, 相田真介: 当院における子宮頸部細胞診 ASC-H の検討. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/06.

永吉陽子, 齊藤英子, 佐野弘子, 相田真介, 進伸幸, 上田和: 当院における子宮頸部細胞診にて腺系異型を疑う症例の組織診結果. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/06.

・研究分担者 森定 徹

森定 徹, 寺本 勝寛, 端 晶彦, 高野 浩邦, 小林陽一, 佐々木 寛, 青木 大輔: 【シンポジウム】 HPV 検査単独法における HPV 陽性者のトリアージとしての細胞診. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉), 2024/11.

森定 徹: 細胞診専門医セミナー: 子宮頸がん検診プログラムの精度管理における精密検査のあり方 - 婦人科医の立場から -. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉), 2024/11.

森定 徹: 精度管理アドバイザー講習会: HPV 検査単独法の検診プログラムの精度管理について. 第 63 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 (千葉), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Morisada T, Saika K, Aoki D : Systematic Review of Candidate Algorithms for implementing of HPV Testing in Japan ' s Population-Based Cervical Cancer Screening. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Development of a Manual for the Management of HPV Primary Screening in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Machii R, Morisada T, Aoki D : One of the Best Uses of the Checklist in Cervical Cancer Screening. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Determination of the algorithm for cervical cancer screening based on the results of the implementation study. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to screening algorithm among screen-positive women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

森定徹, 寺本勝寛, 端晶彦, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 【シンポジウム】 HPV 検診を検証する RCT における HPV 陽性・細胞診陰性例について. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (弘前), 2024/10.

森定 徹: わが国の子宮頸がん検診の状況と現在の課題. 第 32 回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: 住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へー職域検診用「事業評価のためのチェックリスト(検診機関用)」の作成ー. 第 32 回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

森定 徹: HPV 検査の導入を想定したわが国の子宮頸がん検診について. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

森定 徹, 雑賀 公美子, 齊藤 英子, 中山 富雄, 小林 陽一, 青木 大輔: 【ワークショップ】 HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? 指針に基づく HPV 検査単独法の導入までの経緯とその実施要件. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

雑賀 公美子, 齊藤 英子, 森定 徹, 青木 大輔: 【ワークショップ】 HPV 検査をどのように子宮頸がん検診に組みこむか? HPV 検査を子宮頸がん検診に組込む際の検査判定施設の充足状況. 第 66 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

森定 徹: HPV 検査を用いた子宮頸がん検診における LBC. 第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会(大阪), 2024/06.

森定 徹, 寺本 勝寛, 端 晶彦, 高野 浩邦, 小林陽一, 佐々木 寛, 青木 大輔: HPV 検査を用いた子宮頸がん検診を検証する CITRUS スタディの最終報告. 第 65 回日本臨床細胞学会総会春期大会, (大阪), 2024/06.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木大輔: 【シンポジウム】「HPV 単独検診による子宮頸がん検診導入」について. 第 31 回日本 CT 検診学会学術集会(名古屋), 2024/03.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K, Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D : Role of Cervical Cytology in Anticipation of the Implementation of HPV Primary Screening in Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 1. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Laboratory issues in implementing cervical cancer screening with HPV testing - the case of Japan. Part 2. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023)(Taipei) , 2023/12.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio H, Aoki D : Selecting HPV test kits for cervical cancer screening. The 8th Biennial Meeting of Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023) (Taipei) ,2023/12.

Morisada T : Current Status and Issues of Cervical Cancer Screening in Japan. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023)(Seoul),2023/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T, Aoki D : Is cytological evaluation in the cervical cancer screening program in Japan independent of the test results for HPV? NILM vs. ASC-US in HPV-positive cases. Annual Global Meeting of the International Gynecologic Cancer Society (IGCS 2023)(Seoul),2023/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔 ; HPV 検査の有用性を検証するコホート研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状況. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔 : 【シンポジウム】 HPV 検診単独検診を見据えた際の HPV 検査・細胞診の役割. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔 : 日本の現状は、子宮頸がん検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第 32 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定徹, 青木大輔 : 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (松江), 2023/07.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和 : がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

Nishio H, Morisada T, Kawana K, Nagase S, Iwata T, Yamagami Y, Aoki D : 【国際フォーラム】 Evidence review and current situation of abnormal cancer screening in Japan. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋) , 2023/06,国内,口頭.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔 : 子宮頸がん検診における子宮頸部異常の発見率の特徴. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (名古屋) , 2023/06.

森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔 : HPV 検診の有用性を検証するコホート研究における HPV 陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

森定徹 , 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔 : 【シンポジウム】 HPV 検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台), 2022/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔 : 地域住民検診における子宮頸がんおよび CIN の発見率の推移. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜) , 2022/ 10.

森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔 : 【シンポジウム】 CITRUS 研究 (RCT) の進捗と HPV 検診に向けて準備すべきこと. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜) , 2022/ 10.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔 : 市区町村における子宮頸がん検診の実施状況の年次推移. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会 (Web) , 2022/ 09.

森定徹 :【要望講演】 HPV 検査を導入した子宮頸がん検診を考える. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会 (Web) , 2022/ 09.

森定 徹:【教育講演】 がん検診の精度管理の考え方. 第 63 回日本人間ドック学会学術大会(千葉), 2022/09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 木口一成, 久布白兼行, 森定 徹, 青木大輔: わが国のデータによる細胞診による子宮頸がん検診での ASC-US 症例への HPV トリアージの妥当性の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 (福岡), 2022/ 08.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 (福岡), 2022/ 08.

森定 徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検査を用いた検診の有用性を検証する研究における検診陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (久留米), 2022/ 07.

森定 徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/ 06.

・研究分担者 高橋宏和

Takahashi H, Machii R : Effect of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. 20th International Congress On Infectious Diseases 2024 (Cape Town) , 2024/12.

高橋宏和 : 【シンポジウム】 リスク層別化がん検診の障壁と可能性. 第34回日本乳癌検診学会学術総会(高崎), 2024/11.

華井明子, 街勝憲, 清水陽一, 梅沢淳, 金原理恵子, 小手森綾香, 齋藤英子, 逸見治, 堀芽久美, 高橋宏和 : 感染拡大特定警戒地域における BMI と身体活動の変化匿名特定健診データによる検討. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

岩佐詩織, 渡邊哲也, 小手森綾香, 金原里恵子, 中舘美佐子, 石原淳子, 齋藤英子, 堀芽久美, 街勝憲, 華井明子, 逸見治, 清水陽一, 高橋宏和 : 新型コロナウイルス感染症の流行後に生じた日本人の食料支出の経年変化. 第 83 回日本公衆衛生学会総会 (札幌), 2024/10.

男澤詩保里, 岩本和雄, 戸津玲, 高橋宏和 : 職域におけるがん検診の精度管理チャートの開発. 第 34 回日本産業衛生学会全国協議会 (木更津) ,2024/10.

高橋宏和 : 乳がん検診のプロセス指標目標値改正について. 第32回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和 : 住民検診と職域検診のがん検診精度管理状況の違い克服へー職域検診用「事業評価のためのチェックリスト (検診機関用)」の作成ー. 第32回日本がん検診・診断学会総会(東京), 2024/09.

高橋宏和 : 【教育講演】 ポストコロナ時代のがん検診戦略. 第63回日本消化器がん検診学会総会 (名古屋) ,2024/06.

Takahashi H, Machii R : Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. International Asian Cancer and Chronic Disease Screening Network (IACCS) 2023 (Tokyo) ,2023/12.

町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄: 「事業評価のためのチェックリスト」による対策型がん検診の精度管理水準の評価. 第82回日本公衆衛生学会総会 (つくば) , 2023/11.

宮澤仁, 町井涼子, 高橋宏和, 中山富雄 : 新型コロナウイルス感染症拡大期における、がん検診の精密検査受診への影響の分析. 第82回日本公衆衛生学会総会 (つくば) , 2023/11.

齋藤英子, 雑賀公美子, 森定 徹, 河野可奈子, 中山富雄, 高橋宏和, 青木大輔 : 日本の現状は、子宮頸がん検診でHPV検査の結果が細胞診の判定に影響する可能性がある. 第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定 徹, 青木大輔 : 地域保健・健康増進事業データから見た子宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第 65 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (松江), 2023/07.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和 : がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

Takahashi H, Machii R : Impact of COVID-19 for cancer screening and cancer treatment in Japan. International Cancer Screening Network 2023(Turin), 2023/06.

高橋宏和 : 【シンポジウム】 がん検診事業評価の現状と方向性について. 第32回日本乳癌検診学会学術総会 (浜松) , 2022/11.

Takahashi H : Impact of COVID-19 for cancer

screening and cancer treatment in Japan. World Cancer Congress 2022 (Geneva), 2022/10.

高橋宏和：【市民公開講座】がん検診の適切な受け方. 第60回日本癌治療学会学術集会(高崎), 2022/10.

町井涼子, 高橋宏和：新型コロナウイルス感染症による住民がん検診の受診者数への影響. 第81回日本公衆衛生学会総会(甲府), 2022/10.

岡田結子, 高橋宏和, 雑賀久美子, 渋谷克彦：国内契約健診機関の「がん検診精度管理」実態把握と職域における課題の検討. 第81回日本公衆衛生学会総会(甲府), 2022/10.

齋藤英子, 堀芽久美, 大久保亮, 小手森綾香, 街勝憲, 清水陽一, 高橋宏和：乳がんサバイバーにおける身体活動介入の費用対効果：マイクロシミュレーション研究. 第81回日本公衆衛生学会総会(甲府), 2022/10.

高橋宏和：【要望講演】がん検診精度管理における基準値の変更について. 第63回日本人間ドック学会学術大会(Web) 2022/09.

高橋宏和：新型コロナウイルス感染症によるがん検診への影響. 第61回日本消化器がん検診学会総会(Web), 2022/06.

・研究分担者 戸澤晃子

戸澤晃子：子宮頸がんの今後の動向と精度管理. 山梨県子宮がん検診従事者講習会, 2024/02.

戸澤晃子：【シンポジウム】わが国の子宮頸がん検診にHPV検査を導入するメリットとデメリット. 第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

戸澤晃子, 中村 勝, 原 勝洋, 永澤侑子, 久慈志保, 大原 樹, 大熊克彰, 小泉宏隆, 小池淳樹, 木口一成, 鈴木 直：当院におけるASC-H症例の臨床病理学的検討. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台), 2022/11.

戸澤晃子：【共催セミナー】子宮頸がんの予防と治療～最近の話題～. 第62回日本産科婦人科内視鏡学会学術講演会(横浜), 2022/09.

・研究分担者 雑賀公美子

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Development of a Manual for the Management of HPV Primary Screening in Japan. Asian

Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Morisada T, Saika K, Aoki D : Systematic Review of Candidate Algorithms for implementing of HPV Testing in Japan's Population-Based Cervical Cancer Screening. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D : Determination of the algorithm for cervical cancer screening based on the results of the implementation study. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Machii R, Morisada T, Aoki D : One of the Best Uses of the Checklist in Cervical Cancer Screening. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to screening algorithm among screen-positive women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

齋藤英子, 雑賀公美子：子宮頸がん検診におけるHPV検査単独法のアルゴリズム【報告1】. 第83回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

雑賀公美子, 齋藤英子：子宮頸がん検診におけるHPV検査単独法のアルゴリズム【報告2】. 第83回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

岡田結生子, 齋藤英子, 雑賀公美子：職域がん検診実施施設での精度管理実施状況調査の実施可能性に関する検討. 第83回日本公衆衛生学会総会(札幌), 2024/10.

雑賀公美子：HPV単独法による子宮頸がん検診のプログラムの精度管理. 第33回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(弘前), 2024/10.

齋藤英子, 雑賀公美子, Misha Coleman, Hannah Saunders, Marion Saville：【ワークショップ】精度管理向上の理念を含有する自己採取 HPV 検査提

供のあり方ーオーストラリアのストラテジーからー.  
第33回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会  
(弘前), 2024/10.

田中里奈, 松坂方士, 雑賀公美子, 齋藤 博. 青森  
県の対策型検診における子宮頸がん検診の感度・  
特異度. 第33回日本婦人科がん検診学会総会・学  
術講演会 (弘前), 2024/10.

岡田結生子, 齋藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青  
木大輔, 高橋宏和:住民検診と職域検診のがん検診  
精度管理状況の違い克服へー職域検診用「事業評  
価のためのチェックリスト(検診機関用)」の作成ー.  
第32回日本がん検診・診断学会総会(東京),  
2024/09.

雑賀 公美子, 齋藤 英子, 森定 徹, 青木 大輔:  
【ワークショップ】HPV 検査をどのように子宮  
頸がん検診に組みこむか? HPV 検査を子宮頸が  
ん検診に組込む際の検査判定施設の充足状況. 第  
66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児  
島),2024/07.

齋藤英子, 雑賀公美子, 齋藤博, 松坂方士:住民検  
診での都道府県別精検受診率の比較ー子宮頸が  
ん検診と乳がん検診ー公表データを用いた分析.  
第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児  
島),2024/07.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 中山富雄, 小林  
陽一, 青木大輔:【ワークショップ】HPV 検査をどの  
ように子宮頸がん検診に組みこむか? 指針に基づ  
く HPV 検査単独法の導入までの経緯とその実施要件.  
第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児  
島),2024/07.

齋藤英子, 雑賀公美子, 青木大輔:全国がん登録  
との比較からみた、日本産科婦人科学会婦人科腫  
瘍登録による子宮頸部悪性病変の症例把握状況.  
第76回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜),  
2024/04.

齋藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 中山富雄, 青木  
大輔:【シンポジウム】「HPV 単独検診による子宮  
頸がん検診導入」について. 第31回日本 CT 検診  
学会学術集会(名古屋), 2024/03.

Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Aoki D :  
Laboratory issues in implementing cervical  
cancer screening with HPV testing - the case of  
Japan. Part 1. The 8th Biennial Meeting of  
Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO  
2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E , Saika K, Kono K, Morisada  
T, Aoki D : Laboratory issues in  
implementing cervical cancer screening with  
HPV testing - the case of Japan. Part 2. The  
8th Biennial Meeting of Asian Society

Gynecologic Oncology(ASGO 2023)(Taipei),  
2023/12.

Morisada T, Saika K, Saitoh-Aoki E, Kono K,  
Nakayama T, Kobayashi Y, Aoki D : Role of  
Cervical Cytology in Anticipation of the  
Implementation of HPV Primary Screening in  
Japan. The 8th Biennial Meeting of Asian  
Society Gynecologic Oncology(ASGO 2023)  
(Taipei) ,2023/12.

Kono K, Morisada T, Saika K, Saitoh E, Nishio  
H, Aoki D : Selecting HPV test kits for cervical  
cancer screening. The 8th Biennial Meeting of  
Asian Society Gynecologic Oncology(ASGO  
2023) (Taipei) ,2023/12.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Kono K, Morisada T,  
Aoki D : Is cytological evaluation in the cervical  
cancer screening program in Japan  
independent of the test results for HPV? NILM  
vs. ASC-US in HPV-positive cases. Annual  
Global Meeting of the International Gynecologic  
Cancer Society (IGCS 2023)(Seoul),2023/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齋藤英子, 森定徹, 青  
木 大輔; HPV 検査の有用性を検証するコホート  
研究における初回検診後のアルゴリズム遵守状  
況. 第62回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡),  
2023/11.

齋藤英子, 雑賀公美子, 森定 徹, 河野可奈子, 中山富  
雄, 高橋宏和, 青木大輔:日本の現状は、子宮頸がん  
検診で HPV 検査の結果が細胞診の判定に影響す  
る可能性がある. 第32回日本婦人科がん検診学  
会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

森定 徹, 雑賀公美子, 齋藤英子, 中山富雄, 小林  
陽一, 青木大輔:【シンポジウム】HPV 検診単  
独検診を見据えた際の HPV 検査・細胞診の役割. 第  
32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会  
(東京), 2023/10.

齋藤英子, 青木大輔, 雑賀公美子:子宮頸部上皮  
内病変の低侵襲な予後推定マーカー候補につ  
いての文献的検索. 第13回国際医療福祉大学学  
会学術大会(成田), 2023/09.

雑賀公美子:がん対策としての乳がん検診のあり  
方について. 第64回日本人間ドック学会学術大  
会(高崎),2023/09.

齋藤英子, 雑賀公美子, 高橋宏和, 森定 徹, 青木  
大輔:地域保健・健康増進事業データから見た子  
宮頸がん検診の精密検査についての課題. 第65  
回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (松江),  
2023/07.

岡田結生子, 齊藤英子, 雑賀公美子, 森定徹, 青木大輔, 高橋宏和: がん検診実施施設における住民検診と職域検診との精度管理状況の違い克服に向けての取り組み. 第 31 回日本がん検診・診断学会総会(福岡), 2023/06.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: 子宮頸がん検診における子宮頸部異常の発見率の特徴. 第 64 回日本臨床細胞学会総会春期大会 (名古屋), 2023/06.

森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検診の有用性を検証するコホート研究における HPV 陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

Saitoh-Aoki E, Saika K, Aoki D: Current Status and Challenges for of Cervical Cancer Screening in Japan: 35th International Papillomavirus Conference(Washington D.C.), 2023/04.

雑賀久美子, 齊藤英子, 斎藤博: 子宮頸がん検診の精検受診の課題 -自治体格差や年齢格差について-. 第 37 回日本女性医学学会総会 (米子), 2022/11.

森定徹, 河野加奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 【シンポジウム】 HPV 検査を用いた検診の有用性検証する RCT と細胞診陰性/HPV 陽性者の管理. 第 61 回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台), 2022/11.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: 地域住民検診における子宮頸がんおよび CIN の発見率の推移. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜), 2022/ 10.

齊藤英子, 雑賀公美子, 斎藤博: 神奈川県下自治体での子宮頸がん検診の精検受診の実状と改善のための具体策について. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜), 2022/ 10.

森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 【シンポジウム】 CITRUS 研究 (RCT) の進捗と HPV 検診に向けて準備すべきこと. 第 31 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会 (横浜), 2022/ 10.

岡田結子, 高橋宏和, 雑賀久美子, 渋谷克彦: 国内契約健診機関の「がん検診精度管理」実態把握と職域における課題の検討. 第 81 回日本公衆衛生学会総会 (甲府), 2022/10.

河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 森定徹, 青木大輔: 市区町村における子宮頸がん検診の実施状況の年次推移. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会 (Web), 2022/ 09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 小田瑞恵, 木口一成, 明石定子, 中井昌弘, 原田成美, 植松孝悦, 佐々木寛, 青木大輔: 検診機関における検診委託元別のがん検診制度管理状況 -子宮頸がん検診・乳がん検診での検討-. 第 30 回日本がん検診・診断学会総会 (Web), 2022/ 09.

齊藤英子, 雑賀公美子, 木口一成, 久布白兼行, 森定徹, 青木大輔: わが国のデータによる細胞診による子宮頸がん検診での ASC-US 症例への HPV トリアージの妥当性の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 (福岡), 2022/ 08.

森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検査の有用性を検証するコホート研究におけるアルゴリズム遵守状況の検討. 第 74 回日本産科婦人科学会学術講演会 (福岡), 2022/ 08.

森定徹, 雑賀公美子, 齊藤英子, 河野可奈子, 中山富雄, 小林陽一, 青木大輔: HPV 検査を用いた検診の有用性を検証する研究における検診陽性者のアルゴリズム遵守状況の検討. 第 64 回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (久留米), 2022/ 07.

雑賀公美子: 子宮頸がん検診の精度管理 (マネジメント) の問題点-他部位のがん検診との違い-. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/ 06.

森定徹, 河野可奈子, 雑賀公美子, 齊藤英子, 寺本勝寛, 高野浩邦, 小林陽一, 佐々木寛, 青木大輔: 実臨床に組み込まれ行われているわが国の子宮頸がん検診の現状と課題. 第 63 回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/ 06.

#### ・研究分担者 黒川哲司

黒川哲司: HPV 検査単独法で求められる細胞診判定. 第 41 回福井県臨床細胞学会 (福井), 2025/03.

黒川哲司: 座長 福井県婦人科がん検診講習会(福井), 2025/03.

黒川哲司:【ワークショップ】 子宮頸がん検診未受診者対策としての自己採取 HPV 検査の効果と問題点. 第 33 回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(弘前), 2024/10.

黒川哲司:【シンポジウム】 症状のない ASC-US の検討. 第 32 回日本婦人科がん検診学

会総会・学術講演会(東京), 2023/10.

黒川哲司:【特別講演】HPV ワクチンの Topics. 第36回日本臨床内科医学会(福岡), 2023/10.

黒川哲司:(座長)

- ・「LBC を用いた子宮内膜細胞診の新技术」(シンポジウム) 第64回日本臨床細胞学会総会春期大会(名古屋), 2023/06.
- ・一般演題ポスター 第65回日本婦人科腫瘍学会学術講演会(松江), 2023/07.
- ・一般演題 第32回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(東京), 2023/10.
- ・Global Asia Forum, 基礎講座1 第62回日本臨床細胞学会総会秋期大会(福岡), 2023/11.

黒川哲司:【特別講義】コルポ狙い細胞診における生検部位の決定. コルポスコピー研修会(東京), 2023/02.

黒川哲司:【特別講演】子宮頸癌予防最前線. 第51回日本総合健診学会(東京), 2023/01.

黒川哲司:子宮がん検診に HPV 検査単独法が導入されると子宮頸部腺癌はどうなるのか. 第61回日本臨床細胞学会秋期大会(仙台), 2022/11.

黒川哲司, 大沼利通, 品川明子, 吉田好雄:【シンポジウム】併用検診の研究から見えてきた HPV 検診の利点・欠点. 第31回日本婦人科がん検診学会総会・学術講演会(横浜), 2022/10.

黒川哲司:これからの子宮頸がん予防法 -自己採取HPVを考える- HPV 検査の最近の知見と細胞採取ブラシの使用経験. 第63回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/06.

黒川哲司, 加藤優里, 大沼利通, 品川明子, 知野陽子, 吉田好雄:【シンポジウム】内膜細胞診における異型度の評価~新たに臨床の現場に求められるもの~ 子宮内膜細胞の異型度に対応する臨床マネジメント. 第63回日本臨床細胞学会総会春期大会(東京), 2022/06.

黒川哲司:子宮がん検診の重要性と最近の知見. 京都府子宮がん検診研修会(Web), 2022/06.

・研究分担者 上田 豊

上田 豊:【特別講演】ソーシャルマーケティング手法を活用した女性支援~子宮頸がん対策と育児中の孤独対策~. 第39回大阪温知会総会(大阪), 2025/02.

上田 豊:【招聘講演】接種の現状および今後の展望について. 厚生労働省 令和6年度 HPVワクチンの接種に係る医療機関向け研修会(Web),

2025/02.

上田 豊:【招聘講演】HPVワクチンの2024年の上半期までの累積接種率. 第105回厚生科学審議会予防接種・ワクチン分科会副反応検討部会/令和6年度第10回薬事審議会医薬品等安全対策部会安全対策調査会(東京), 2025/01.

上田 豊: HPVワクチンによるがん予防 その現状と課題. 令和6年度城東区学校保健協議会, 2024/12.

上田 豊: HPVワクチンによるがん予防 その現状と課題. 令和6年度東成区学校保健協議会, 2024/11.

上田 豊:【シンポジウム】Current Status of Cervical Cancer and HPV Vaccine in Japan. 第62回日本癌治療学会学術集会(福岡), 2024/10.

上田 豊: HPV ワクチンの接種の状況. HPV ワクチン拠点病院整備事業 近畿ブロック医療者研修会(Web), 2024/10.

上田 豊:男女で必要な HPV 関連がんの予防 メディカルチェック推進機構 子宮頸がん・感染症啓発講演会, 2024/10.

上田 豊:【シンポジウム】本邦における子宮頸がん HPV ワクチンの実情. 第31回日本がん予防学会総会(徳島), 2024/09.

上田 豊: HPVワクチンの接種を判断するに当たって知っておくべきこと. 西宮市子宮頸がん予防セミナー(西宮), 2024/07.

上田 豊:子宮頸がんだけではなく、男性も罹る HPV関連がん. サンスター(株)社内セミナー(大阪), 2024/07.

上田 豊:日本はいつまで、頸がんで若い女性が命を落とし続けられないといけないのか. 宮崎県子宮頸がん予防 HPVワクチン促進のための研修会(Web), 2024/07.

上田 豊:知っておいていただきたい、子宮頸がんの実情. 大阪大学HPVワクチンセミナー(大阪), 2024/07.

上田 豊: HPV 最新情報~自信をもって勧められるように~. 令和6年度第1回大阪府学校保健講習会(大阪), 2024/06.

上田 豊:このままじゃダメなんです. 大切な人に伝えて下さい、子宮頸がん対策の大切さ. 第65回日本臨床細胞学会総会春期大会 市民公開講座(大阪), 2024/06.

上田 豊:子宮頸がん予防の HPV ワクチン接種

率アップに向けた課題. 日本対がん協会セミナー (Web), 2024/05.

上田 豊: どうして子宮頸がんの予防が勧められるのか. 大阪大学 HPVワクチンセミナーin 2024 いちよう祭(大阪), 2024/05.

上田 豊: 【シンポジウム】HPVワクチンの再普及に何が必要か. 第 40 回日本産婦人科感染症学会 学術集会(東京), 2024/05.

上田 豊: HPV 最新情報. 産婦人科医のための HPV ワクチン講習会(福井), 2024/04.

上田 豊: 【令和 5 年度健康・医療活動賞受賞講演】HPV ワクチンに関する学術的エビデンスの創出と自治体の子宮頸がん対策および母子保健事業に対する学術的支援. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

上田 豊: HPV ワクチン. 第 76 回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

上田 豊: 【講演】「今こそ知りたい! 子宮頸がん予防」. 第 62 回日本臨床細胞学会総会秋期大会 市民公開講座(福岡), 2023/11.

上田 豊: 【講演】「未来の家族との生活のために今、知っておきたい AYA 世代の子宮頸がんの予防と治療」. 畿央祭ウェルカムキャンパス がんカフェーきらめき(奈良), 2023/10.

上田 豊: 【講演】「20代からできること、男性にもできること、みんなができる子宮頸がん予防の話」. 富士通株式会社 健康セミナー(Web), 2023/10.

八木麻未, 上田豊, 池田さやか, 関根正幸, 宮城悦子, 榎本隆之, 木村正: HPV ワクチン積極的勧奨差し控えの弊害解消に必要なキャッチアップ接種率の検証. 第 75 回日本産科婦人科学会学術講演会(東京), 2023/05.

上田豊: 本邦の子宮頸がん対策における今後の課題. 令和 4 年度 第 8 回豊中市薬剤師会 Web 研修会 (Web), 2022/11.

・研究分担者 西尾 浩

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Factors of adherence to cytology based cervical cancer screening algorithm in Japan. Asian Society of Gynecologic Oncology (ASGO) 2024 Meeting(Bali, Indonesia), 2024/11.

Kono K, Saika K, Saitoh-Aoki E, Morisada T, Nishio H, Yamagami W, Aoki D : Adherence to

screening algorithm among screen-positive women in cytology/HPV co-testing cervical cancer screening in Japan. The 36th International Papillomavirus Conference(Edinburgh, UK), 2024/11.

西尾 浩, 松田理沙, 松井友哉, 椎名美季, 大野あゆみ, 横田めぐみ, 岩田 卓, 山上 亘: 新規免疫チェックポイントNeuritin1の発現解析と複合的免疫療法の開発. 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

鈴木史朗, 宇佐美知香, 竹原和宏, 渡利英道, 西尾真, 馬場 長, 西尾 浩, 平良祐介, 小林陽一, 上浦祥司, 園田頭三, 堀江弘二, 加藤真吾, 丸子武史, 山本景子, 井上耕平, Yamada Karin, Lorusso Domenica, 長谷川 幸清: 婦人科がん免疫療法におけるnext innovation 高リスク局所進行子宮頸がん患者を対象としたKEYNOTE-A18の日本人部分集団解析 (Pembrolizumab Plus Concurrent Chemoradiotherapy for High-risk Locally Advanced Cervical Cancer: Japanese Subgroup Analysis From the Phase 3 ENGOT-cx11/GOG-3047/KEYNOTE-A18 study). 第66回日本婦人科腫瘍学会学術講演会 (鹿児島), 2024/07.

西尾 浩: 婦人科腫瘍におけるがん免疫療法の最前線. 第147回関東連合産科婦人科学会 総会・学術集会(東京), 2024/06.

西尾 浩: 子宮頸がんに対するがん免疫微小環境-from bench to bedside. 第76回日本産科婦人科学会学術講演会(横浜), 2024/04.

## G. 知的財産権の取得状況

### 1. 特許取得

《特許出願》

藤井多久磨

【発明の名称】 子宮頸がんおよび/または子宮頸部上皮内腫瘍の検査方法

【国際出願番号】 PCT/JP2023/030959

【出願人】 学校法人藤田学園

【発明者】 藤井多久磨、川崎理絵

【出願日】 2023年8月28日

### 2. 実用新案登録

特になし

### 3. その他

特になし